

遇(巡査看守監獄醫)ヲ受クルモノ、支給方法ハ總テ内國旅費規則ニ依ル  
 (警察醫ヲ除ク) 旅費支給額規程

第一條 奏任官、奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルモノ及手當金一日貳圓以上ヲ受クルモノニハ甲  
 号表一等ノ額ヲ支給ス

第二條 判任官、判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルモノ、判任官ノ待遇ヲ受クルモノ、内監獄醫、警  
 察醫又ハ縣立病院醫師、教誨師其他月給若シクハ月手當三拾圓以上又ハ日給若クハ一日手當壹  
 圓以上ノ額ニハ甲号表二等ノ額ヲ支給ス但月手當三拾圓以上支給スヘキ者事務ノ都合ニ依リ其  
 以下ヲ支給スル場合ニハ尙本條ノ額ヲ支給ス

監獄醫及警察醫教誨師ハ其車馬賃ニ限リ一里毎ニ金八錢ヲ支給ス

第三條 判任官ノ待遇ヲ受クルモノ及第二條ノ額ヲ除ク外ノ雇ニハ甲号表三等ノ額ヲ支給ス

第四條 押丁、授業手、給仕、小使、職工等ニハ乙号表ノ額ヲ支給ス

第五條 地方税賦課徴收ニ關スル用務ヲ帶ヒ郡役所所轄内ニ出張巡回スル書記及雇ニハ左ノ月額  
 旅費ヲ支給ス

書記 拾五圓 雇 拾貳圓

第六條 土木掛出張所ニ出張ノ雇ニシテ土木工事ノ設計、施工、監督、測量及出來形検査等ノ爲メ  
 其區畫内ヲ巡回スルトキハ月額旅費金拾五圓ヲ支給ス

土木掛出張所内ニ於テ執務スルトキハ一日旅費金拾七錢ヲ支給ス但縣廳所在地ノ出張所内ニ於  
 テ執務スルトキハ旅費ヲ支給スル限ニアラス

第七條 第五條及第六條ノ月額一ヶ月ニ滿タサルトキハ三十日ヲ以テ除シ日割ヲ以テ之ヲ支給ス  
 第八條 地方發所屬ノ職員及雇員ヨリ國庫費所屬ノ職員ニ轉任セシ場合ニ於テ前任ノ用務處辨ノ

爲メ旅行セシメタル者ニハ此規定ノ額ニ依テ新任廳ヨリ支出スヘキ官職身分相當ノ旅費ヲ地  
 方費ヨリ支給ス

第九條 他廳ノ官吏ナシテ本縣地方費所屬ノ用務ニ従事セシムルトキハ此規定ノ額ニ依  
 テス該廳ヨリ支出スヘキ旅費額ヲ地方費ヨリ支給ス

甲号表

等	級	派車賃	每哩	派船賃	每海里	車馬賃	每里	日	當	每	日
一	等	六	錢	六	錢	拾	貳	錢	壹	圓	
二	等	參	錢	四	錢	拾	錢	五	拾	錢	
三	等	貳	錢	參	錢	七	錢	四	拾	五	錢

乙号表

派車賃	每哩	派船賃	每海里	陸路雜費	每里	日	當	每	日
貳	錢	三	錢	四	錢	參	拾	錢	

○知事訓令警第十一号 廿七年三月十九日

岡山水上警察署

明治二十四年(三月)警第七号巡查及監督警巡船乘組水夫水上巡廻一泊以上日當左ノ通り改正シ來

ル四月一日ヨリ施行ス

巡査	一泊	毎	金拾五錢
監督	全	金	八錢
乘組	水夫		

○警務課長通牒警第六八二號 廿九年四月十日

各署長宛

警察官吏公務ニ依リ私設鉄道瀛車ニ乘リ旅行致候時ハ乘車証ヲ携帶半價ヲ以テ乘車可致等ノ處國庫旅費支辨ノモノ管外出張ノ節ニ限リ普通瀛車賃仕拂相成候事ニ今般決定致候條御了知相成度尤モ此場合ニハ乘車券ハ使用スヘカラサル儀ト御了知可有之依命此段及御通牒候也

○警務課長通知警第八九四号 廿七年四月四日

各署宛

刑事証人トシテ裁判所ヨリ呼出テ受ケ出頭ナシタル巡査相當旅費日當警察費ヨリ支給シテ証人旅費日當ハ即日該裁判所へ請求シ他日請求金額收候時ハ地方稅雜收入へ納付候等ニ付右様御承知有之度爲念及御通知候也

○警部長訓示警第一九一七号 二十九年十一月廿日

巡査ニシテ証人トナリ裁判所ノ呼出テ受ケ出頭ナシタルトキ証人旅費日當即日裁判所へ請求方明治二十七年四月警第八九四号ヲ以テ警務課ヨリ通牒致置候次第モ有之候處往々其請求ヲ忘リ候向

有之哉ニ相聞不都合ノ至ニ候條自今出頭ノ節ハ無遺漏即時書面ヲ以テ請求致候様爲ト巡査ニ訓示シ置カルヘシ

○坪井警察署問合坪第四八〇号 廿九年二月十五日

左之件々至急何分ノ御回報仰度此段及御問合候也

一 例へハ刑事被告人松江傳遞護送アルニ當リ當署巡査ヲシテ勝山警察署へ護送セシメタル處同署ニ在テハ非常事件即チ例へハ議員選舉等ノ爲メ署員ノミニテハ不足ヲ告クルニ依リ他署巡査ノ助勤セル場合ニテ署内當直員ノ外巡査壹名モ無之ヲ以テ同署ニ於テハ先方ノ沿道警察署迄直送シ吳度トノ事ニ付無止當署ヨリ出張セシ護送巡査ハ先方ノ沿道警察署へ犯人ヲ護送セリ右等ノ場合勝山警察署ヨリ先方ニ至ル迄ノ犯人ニ係ル乘車賃ノ如キ費用等ハ如何ナル場合ト雖モ當署ヨリ支辨スヘキモノナルヤ將又勝山署ハ傳遞署ナリ且當署ノ巡査承諾セサルトキハ無論勝山署ノ支辨ニ屬スル費用ナレハ巡査旅費ヲ除ク外ハ一切當署ニ於テ支辨スヘキヤ

一 今回募集相成タル臺灣府巡査ニハ巡査手當同支度料同旅費等支給スル旨有之該巡査ノ如キハ任命ノ上ハ何レ縣廳へ出頭シ御給與可相成モノハ同廳ニ於テ之ヲ受取リ警察署ニ於テハ通常免職者ノ如ク被服費及給與品返納等ニ至ル迄總テ同様取扱ヒ警第二七五號ノ一御通牒書中ノ諸費ハ警察署ニ於テ一切支給スルノ限ニ無之ヤ

警務課長回答警第三一六號ノ一  
 本月十五日坪第四八〇號御問合之趣左ノ通御了承相成度此段及御回答候也  
 第一項ハ前段

第二項ハ後段御見込ノ通り

(參照)

○閣令第十四号

十九年六月

内國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治九年太政官第六十四号達旅費定則内國ノ部ハ廢止ス

内國旅費規則

第一條 内國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第二條 内國旅費ハ分テ四等トシ別表ノ定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リ汽車賃、汽船賃、車馬賃及日當ヲ支給ス

第三條 汽車賃ハ汽車旅行、汽船賃ハ汽船旅行、車馬賃ハ陸路旅行、日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第四條 官有ノ船車馬及各官廳ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ旅行シ若クハ旅行ノ性質ニ依リ特ニ船車馬等ノ實費拂テ許可シタルトキハ本令ノ汽車賃、汽船賃及車馬賃ヲ支給セス

第五條 汽車賃ハ哩數、汽船賃ハ海里數、車馬賃ハ里數、日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給スヘシ外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セス

第六條 (削除)

第七條 日當ハ陸路六里未滿汽車十哩未滿及汽船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサル者トス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ

第八條 汽車賃、汽船賃、及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給ス但其一位未滿ノ端數ハ計算セサル者トス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但汽車賃及汽船賃ハ會計年度ニ拘ハラス汽車汽船ノ到着地ニ違シタル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ

第十條 檢田測量及土木工事ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃ヲ給セス日當額ニ三割ヲ増給スヘシ

第十一條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ル迄本官相當ノ汽車賃汽船賃若クハ車馬賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第十二條 廢官若クハ退官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シテ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條 旅行中死亡廢官又ハ諭旨退官シタル者ハ前官相當ヲ以テ舊任地迄ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルニハ瀛車旅行ハ一日二百哩詰、汽船旅行ハ一日百海里詰、陸路旅行ハ一日十二里詰トス但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其日數ヲ計算スヘシ

第十七條 各省大臣ハ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特ニ其旅費額ヲ定メ月額ヲ以テ支給スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得

第十九條 (削除)

第二十條 陸海軍武官文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムヘシ  
 第二十一條 神官及傭員其他本令ニ明文ナキ者ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シテ別ニ之ヲ定ムヘシ

別表

旅

費

額

等	級	汽車賃	汽船賃	車馬賃	日當
一	親任官	八	拾	貳拾八	四
二	勅任官	七	八	貳拾	貳圓五十錢
三	奏任官	六	六	拾五	壹圓六十錢
四	判任官	四	五	拾	七拾

一 強雨積雪及道路險惡ノ爲メ定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ハ車馬賃ノ五割以内ヲ増給スルコトヲ得  
 一 北海道廳管轄内ハ毎十一月ヨリ翌年三月迄五ヶ月間車馬賃ニ限り定額ノ二倍以内ヲ増給スルコトヲ得

○大藏省訓令第二十三号 十九年六月

北海道廳

閣令第十四号ヲ以テ内國旅費規則ヲ定メラレタルニ付左ノ通り心得ヘシ

府

縣

- 一 府縣大小書記官ハ三等旅費收稅長ハ四等旅費屬官判任御用掛ハ月俸四拾圓以上五等旅費月俸四拾圓未満ハ六等旅費ヲ給スヘシ
- 一 北海道長官府知事縣令ハ旅行ヲ命スルトキ豫メ事務ノ便宜路程ノ遠近等ヲ量リ經過ノ路筋旅行日數ヲ定ムヘシ
- 一 海灣河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ車馬賃ノ額ヲ支給スヘシ
- 一 非常急行上司隨行等ノ如キ場合ニ於テ定額ノ車馬賃ヲ以テ支辨シ難キト認ムルトキハ北海道長官府知事縣令ノ見込ヲ以テ隨時實費拂ヲ許可スヘシ
- 一 海里ノ距離ハ明治五年第三百三十号布告ニ依ルヘシ
- 一 赴任旅費ハ在官者ニシテ在勤地ヲ轉シタルトキニ限り支給スヘシ
- 一 新ニ任用ノ者ハ在勤地マテ規則第十三條ノ旅費ヲ支給スヘシ
- 一 兼官者ハ兼官ノ用務ニ據リ旅行スルトキハ兼官相當ノ旅費ヲ給シ本官兼官ノ用務ヲ兼スルトキハ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ
- 一 従前特例ヲ以テ旅費ノ支給法ヲ定メタル者ト雖モ總テ閣令第十四號内國旅費規則ニ據ルヘシ

○内務省令第十一号 十九年六月

警察官吏司獄官吏及等外吏雇員其他内國旅費概則左ノ通相定ム但來七月一日ヨリ施行スヘシ  
 警察官吏其他旅費概則

第一條 警視警部長警部警部補ノ旅費ハ閣令第十四号内國旅費規則ニ依リ支給スヘシ

但警部長ハ四等旅費府縣ノ警部月俸四拾圓以上ハ五等旅費月俸四拾圓未滿及警部補ハ六等旅費ヲ支給スルモノトス

第二條 警視及警部警部補ノ持区内ヲ巡回スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

警視 日當 金壹圓貳拾錢

警部補 日當 金八拾錢

第一項 十二里以上ノ巡回ハ其日數ニ應シ日當ヲ支給スヘシ

第二項 六里以上十二里未滿ノ巡回ハ其日數ニ應シ日當半額ヲ支給スヘシ

第三項 六里以上ニ渉ル巡廻中滞在スルトキハ其滞在ノ日數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第四項 六里未滿ノ巡回ハ日當ヲ給セス但宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第五項 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ派出シ又ハ特ニ舟車馬ノ實費拂テ許可シタルトキハ日數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第六項 水上警察署ノ区内ハ里數ニ拘ハラズ一泊毎ニ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第三條 巡查ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 巡查ハ甲号表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 召募旅費及免職歸國旅費(給助例施行)ハ一里毎ニ金五錢ヲ支給スヘシ但里程三里未滿ハ給與セス

第三項 免職歸國旅費ハ奉職期限ニ至ラサル者ニハ支給セスト雖モ職務上重傷ヲ受ケ又ハ官ノ都合ニ依リ免職スルモノハ支給スヘシ

第四項 職務上ニ死シ及奉職中病死スルモノハ奉職期限ニ拘ハラズ歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ支給スヘシ

第四條 巡查持区内ヲ巡回スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

巡查日當 金三十錢

第一項 巡回中宿泊スルトキハ其泊數ニ應シ日當ヲ支給スヘシ

第二項 至急ノ派出ヲ要シ特ニ舟車馬ノ備入ヲ許可シタルトキハ該實費ヲ支拂フヘシ但此ノ場合ニ於テモ日當ハ前項ニ依ル

第五條 集治監及假留監典獄副典獄書記看守長御用掛ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 典獄ハ閣令第十四号内國旅費規則ノ四等旅費副典獄ハ全五等旅費ヲ支給スヘシ

第二項 書記看守長判任御用掛ハ月俸四拾圓以上ハ閣令第拾四号内國旅費規則ノ五等旅費月俸四拾圓未滿ハ全六等旅費ヲ支給スヘシ

第六條 (削除)

第七條 看守等外吏等外御用掛雇員ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 看守等外吏等外御用掛雇員ハ甲号表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 看守ノ召募旅費及免職歸國旅費ハ第三條ノ第二項第三項第四項ニ依ルヘシ

第三項 押丁給仕小使職工等ハ乙号表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十篇 第一章 俸給旅費及諸給與

規則ノ三等旅費其他有位帶動ノ士民全上ノ節ハ全四等旅費ヲ支給スヘシ

第五項 一般ノ人民全上ノ節ハ甲号表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八條 支給ノ方法ハ第二條及第三條ノ第二項第三項第四項第四條及第七條ノ第二項ヲ除ク外總

テ閣令第十四号内國旅費規則ニ依ルヘシ

第九條 地方ノ狀況ニ依リ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

甲号表

汽 車 賃	每 一 哩	汽 船 賃	每 一 海 里	車 馬 賃	每 一 里	日	當 每 一 日
金 三	錢 金	金 四	錢 金	金 七	錢 金	五	拾 錢

乙号表

汽 車 賃	每 一 哩	汽 船 賃	每 一 海 里	車 馬 賃	每 一 里	日	當 每 一 日
金 貳	錢 金	金 三	錢 金	金 四	錢 金	三	拾 錢

○内務省訓令第二十五号 二十年四月

警察官吏ニシテ其持区内ヲ巡廻スルトキハ日常ハ特ニ其月額ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ支給スルコトヲ得

○内務省訓令第二号 二十一年二月

廳 府 縣  
集 治 監  
假 留 監

明治廿年(五月)勅令第十二号私設鐵道條例第二十一條公務ヲ以テ往復スル警察官吏及第二十二條囚徒護送ノ官吏ニシテ半價ヲ以テ乘車スル場合ニ於テハ明治十九年(六月)閣令第十四号及全年(六月)内務省令第十一号内國旅費ニ屬スル汽車賃半額ヲ支給スヘシ

○閣令第十四号 廿二年四月

各 官 廳

明治十九年六月閣令第十四号内國旅費規則第四條ニ依リ官船若クハ官廳ニ於テ借入傭入ノ船舶ニ乘込出張スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲナサ、ルトキハ左ノ食卓料ヲ支給ス

親 任 官	一 日	金壹圓七拾錢
勅 任 官	一 日	金壹圓五拾錢
奏 任 官	一 日	金壹圓貳拾錢
判 任 官	一 日	金九拾錢

○内務省訓令第二十四号 二十二年六月

明治十九年(六月)内務省令第十一号警察官吏其他内國旅費概則中巡查看守及雇員其他ノ者官船若クハ各廳ニ於テ借入雇入ノ船舶ニ乘込出張スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲナサ、ルトキハ左ノ食卓料ヲ支給スヘシ

巡查看守雇員 一日 金五拾錢  
押丁給使小使職工 一日 金三拾錢  
華族及從六位勳六等以上ノ士民ハ本年(四月)閣令第十四号委任官ノ額其他有位帶勳ノ士民ハ全判任官ノ額一般ノ人民ハ本訓令第一項ノ額ヲ給ス

○警保局長通知警第一一七号 廿二年十一月八日

警察官吏持區内日當月額支給方曾テ及御通知置候處鹿兒島縣伺ニ對シ別紙寫之通り指令相成候條爲御心得此段及御通知候也

(別紙)  
警第二七号

警察官吏持區内月額日當支給方疑義ノ件伺

明治廿年四月御省訓令第廿五号ニ基キ全年全月警甲第四号御省決議警保局長ヨリノ通牒ヲ標準トシ同定ノ上本縣警察官吏持區内月額日當支給法ヲ定メ夫々支給致來リ候處該通牒第二項ニ日當月額ヲ受クル者病氣引(職務上負傷及傳染病ニ罹リタル場合トモ)又ハ忌引ノトキハ日數七日迄ハ全額ヲ給シ八日以上ニ及フトキハ其日數ヲ除キ第一項ニ依リ支給ストアリ假令ハ茲ニ一日ヨリ二日迄休暇引續キ三日ヨリ九日迄七日間病氣又ハ忌引ヲ爲シタルモノアリ右ノ場合ニ於テハ三日ヨリ七日迄五日間ノ日割ヲ給スルヤ又ハ三日ヨリ起算シ九日迄七日間ノ日割ヲ給スルヤ將又總テ支給セサルモノナルヤ差掛リタル儀モ有之候得共聊カ疑義ニ涉リ決兼候條何分至急御指揮相成度此段相伺候也

明治廿二年十月十五日

鹿島縣知事渡邊千秋

内務大臣伯爵山縣有朋殿

(指令)

本年十月十五日警第二七号伺警察官吏持區内日當月額支給方疑義ノ件支給スヘキ限リニアラス但管内外へ出張ノ者引續キ病氣引忌引ノトキモ本文ニ準ス

明治二十二年十一月七日

内務大臣伯爵山縣有朋

○山梨縣知事ヨリ内務省庶務局長へ照會第二六二号 廿八年四月

警部持區内日當月額ヲ以テ支給スルモノニ對シ非職退官轉任ヲ命シタル場合ニ於テハ其當時實際巡回ノ如何ニ拘ハラス辭令書接受ノ日迄日割ヲ以テ支給スル等ニ候哉又ハ其巡回中ニアリシヤ否ヲ調査シ巡回中ノモノハ歸署ノ日迄其他ハ辭令發布ノ日迄日割ヲ以テ支給スベキモノナルヤ何分ノ御報相煩度此段及照會候也

(回答)

梨第二五号

本月四日第二六二号ヲ以テ警部持區内日當月額旅費支給方ノ儀ニ付御照會ノ趣了承右ハ後段御見解ノ通り支給相成可然ト存候此段及回答候也

○内務書記官通牒官甲第六号ノ内 廿六年五月四日

宮崎縣ヨリ官吏職務上ニ關シ刑事被告人トナリシ場合旅費支給方ノ件伺出ニ對シ左記之通指令相成候條爲御心得及通牒候也

宮崎縣伺

廿六年一月廿七日

警察官吏等職務ヲ以テ行フタル現行犯逮捕詰問及其檢証處分等ニ關シ刑事ノ被告人トナリ裁判所  
 へ出頭シタルトキニ於テ其係給ハ假令判決ノ無罪若クハ免訴ニ出テタル場合ト雖トモ都テ私事ノ  
 故障トナシ出廷ノ爲メ任地出發ノ日ヨリ起算シ成規ニ依リ減給シ右出廷ニ要スル旅費モ亦一切支  
 給セサル儀ト心得可然哉

(指 令)

廿六年五月四日

本年一月廿七日付伺官吏職務上ニ關シ刑事被告人トナリシ場合係給并旅費支給方ノ件伺之通

第十篇

第一章

第三節

諸給與

明治廿一年 六月二日	知事達 警第一〇号	巡查駐在所備品消耗品借家料支給方
全 年 六月七日	警部長達 第六五号	全上支給日及支拂方ヲ定ム
全 年 四月十五日	知事達 應第一五号	國庫支辨宿直及徹夜勤務賄料ノ件
全 年 五月十九日	全 應第一六号	地方費支辨全上
全 年 八月十五日	警部長達 警第一九一五号	駐在居住所巡查欠勤ノ節月額需用費支給ノ件
全 年 一月廿一日	全 警第一九二号	警察費中備品費借家料流用伺出方
全 年 十月九日	全 警第二七号	駐在居住巡查欠員ノ節月額需用費支給ノ件

○知事達警第拾號  
 廿一年六月二日

警察本部  
 警察署  
 警察分署



巡查駐在所備品消耗品借家料ノ金額本年六月以降左ノ通り相定メ候條別紙雛形ニ據リ支給スヘシ  
但官有廳令ヲ除クノ外修繕費ハ一切支給セズ

一金貳拾錢

壹ケ所壹ケ月備品月額需用費

一金四拾錢

全 消耗品月額需用費

一金五拾錢以下

全 借家料

(別紙雛形)

(廿一年八月二十九日本縣達警第廿四号ヲ以テ雛形中巡查在勤所トア)  
ルヲ巡查駐在所警察署分署所在地ニアルモノヲ巡查駐在所ト改ム)

證

一金

是ノハ何月分何巡查駐在所(巡查居住所)借家料

但建坪何坪

右金員正ニ領収候也

何國何郡區何町村何番邸

家主

姓名印

年月日

本屬警察署分署宛

○警部長達第六五号

二十一年六月七日

警察署  
警察分署

今般達警第拾号ヲ以テ巡查在勤所費額被定候就テハ備品消耗品代價ハ毎月二十八日支給ノ定日ト

シ一ヶ月間轉所等異動ヲ生スル節ハ日割ヲ以テ支給スヘシ  
但借家料ハ毎月末日支拂フヘシ  
右相達ス

○知事達廳第十五号

廿四年四月十五日

各部

署直稅署間稅  
署ヲ除ク

判任官以下宿直又ハ徹夜勤務ノ者ニハ食料トシテ左ノ通本月一日ヨリ支給ス

官職	名宿直壹度徹夜壹度
----	-----------

判任官并係ル國庫員	金七錢拾錢五厘
-----------	---------

門衛小使等ノ類	金五錢七錢五厘
---------	---------

○知事達廳第十六号

廿四年五月十九日

各部

地方費ヨリ支給スル辨當料支給規則來ル六月一日ヨリ廢止シ更ニ宿直及徹夜ノ者ニハ左ノ通食料ヲ支給ス

官職	名宿直壹度徹夜壹度
----	-----------

判任官并雇員	金七錢拾錢五厘
--------	---------

巡	查	金	七	錢	七	錢
小	使	ノ	類	金	五	錢
				金	七	錢
				五	厘	

○警部長達警第一九一五号 廿八年八月十五日

警察署 警察分署

巡查駐在所居住所詰巡查疾病其他ノ事故ニ依リ欠勤ノ場合組合巡查又ハ接近受持巡查ニ於テ補助セシモノニ對シ月額需用費分割支給方々問合ノ向有之右月額需用費ハ其駐在所備品消耗品ニ支給相成候儀ニ付該駐在所詰巡查ニ支給シ補助セル巡查ニハ日割支給セサル儀ト心得フベシ

○警部長訓令警第一九二号 廿九年一月廿一日

警察署 警察分署

警察費中廳費第一目備品費第二目消耗品費ノ内月額需用費殘餘ヲ以テ雜品代ニ全第六目雜費ノ内借家料ノ殘餘ヲ以テ取締鑑札及標木製作費ニ支出セントスルトキハ前以テ伺出候儀ト心得ベシ

○知事訓令警第二拾七號 廿九年十月九日

警察署 警察分署

巡查駐在所及居住所詰巡查欠員ノ場合他ノ巡查ヲシテ助勤セシメ候節ハ自今備品消耗品月額需用費ノ半額日割ヲ以テ支給ス

第十篇

第二章

囚人及刑事被告人留置護送費用

明治廿七年 知事訓令 集治監ニ入ルヘキ囚徒遞傳諸費取扱手續  
七月二日 警第三七号

全 廿四年 警部長達 留置場ニ拘禁スル者ノ費用支辨方  
三月廿七日 警規第一四号

全 年 警訓第五二五号 令狀執行前賄料支辨方  
十月廿九日

全 廿七年 警務課通牒 囚人傳遞護送費及無罪解放者旅費ノ件  
五月十六日 警第一二五九号ノ一

全 廿八年 警部長達 刑事被告人護送中賄料溢リニ超過スベカラザル件  
三月三十日 警第七一五号

(参照) 明治廿六年 內務書記官通牒 已決囚押送費用ノ件  
四月五日 庶甲第二九号

全 年 警甲第八号 裁判確定後囚人原地方送還費用ノ件  
六月七日

○知事訓令警第三拾七號 廿七年七月二日

沿道

警察署 警察分署

集治監ニ入ルヘキ囚徒遞傳諸費自今左ノ通取扱フヘシ

但明治二十四年五月警第十九号ハ自今相廢ス

集治監ニ入ルヘキ囚徒遞傳諸費取扱手續

第一項 遞傳諸費ヲ要シタルトキハ各債權者ヨリ第一号及第二号書式ノ請求書正副貳通(一通ハテモ妨ケナシ以下倣之)ヲ徵シ金額其他記載ノ事項相違ナキヤヲ確メ添齊ノ上其時々仕拂命令官ヘ送付ス

第二項 本廳ニ於テ前項ノ請求書ヲ受タルトキハ之ヲ調査シ仕拂命令ヲ發行シ各債權者ヘ其通知書ヲ交付スヘキニ付現金受領ノ節其通知書裏面ニ署名捺印ノ上金庫ヘ送付セシムヘシ

第三項 遞傳諸費ニシテ遞傳巡查又ハ署長等ニ於テ練替仕拂ヲナシタルモノアルトキ債權者ノ受領証正副貳通ヲ徵シ練替タル者ニ於テ第三号書式ノ練替金請求書正副貳通ヲ添ヘ請求シタルトキハ金額其他記載ノ事項相違ナキヤヲ確メ添齊ノ上仕拂命令官ヘ送付スヘシ

第四項 遞傳ノ頻繁ニシテ現金準備ノ必要アル場合ニ於テハ凡ソ一ヶ月ヲ支ヘ得ヘキ見込ヲ以テ第五号書式ニ依リ概算渡ヲ請求スルコトヲ得

第五項 前項概算渡ヲ受ケタルトキハ第六号書式ノ概算受取金整理簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ第六項 概算渡ヲ受ケタルモノニ對シ仕拂ヲナシタルモノアルトキハ一件毎ニ債權者ノ受領証書正副貳通ニ第七号書式ノ仕拂金請求書正副貳通ヲ添ヘ其時々仕拂命令官ヘ送付スヘシ

但年度末月分ノ仕拂ニ限リ一ヶ月分証憑書類正副貳通ヲ取纏メ第八号書式ノ決算証正副貳通ヲ添ヘ仕拂ヲキトキハ適宜返納証書正副貳通ヲ製シ翌月五日迄ニ仕拂命令官ニ送付スヘシ

第七項 本廳ニ於テ第三項及第六項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ第二項ノ手續ニ依リ請求者ニ向テ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八項 概算渡ヲ受ケタル金額ニ對シ第六項但書ノ決算ヲ了リ返納金アルトキハ本廳ヨリ發行ス

ル返納告知書ニ依リ指定ノ金庫ヘ納入スヘシ

第九項 囚人賄費甲乙兩署ニ於テ重複ニ涉ラサル様囚徒引繼ノ際明確ニ通告スヘシ  
第一号書式(用紙半紙) 正副貳通壹通ハ無印ニテモ妨ケナシ  
遞傳囚人賄料請求(領收)書  
一金何

内 容

刑 期	年	月	日	度數	米	麥	前月平均	菜代及	一食算	計	族	籍	姓	名
十二年	何年	何月	何日	何	二米	一合六勺六	圓五十錢	二錢七厘	壹錢七厘	參錢四厘	府縣郡市町	何	某	某
於ア爲ヘシ	何年	何月	何日	朝	マテ	二麥	二合四勺六	圓	二錢七厘	壹錢七厘	參錢四厘	村大字番邸	何	某

右請求(受領)候也

明治何年何月何日

仕拂命令官

岡山縣知事姓名宛

△本証書ハ何縣監獄署ヨリ三池飯留監ヘ遞傳スル囚人何警察(分)署ヨリ護送ニ付當署ヨリ何警察(分)署ヘ護送ノ際要シタルモノニ相違無之候也  
明治何年何月何日

何警察(分)署印  
(印ハ朱書)

(備考) 監獄則ニ依リ難ク下白米ヲ以テ取賄ヒタル場合ニハ前記但書ニ於テ併セテ其理由ヲ証  
明スヘシ

護送途中賄料受領証書ハ此書式ニ準ス

族籍姓名遞傳狀ニ照シ相違ナキ様注意スヘシ

第二号書式(用紙半紙) 正副二通内一通ハ無印ニテモ妨ケナシ

遞傳囚人乘車賃請求(受領)書

一金何 程

是ハ何年何月何日何所ヨリ何所迄此里程何里何町(一里ニ付賃錢ヲ定メタルトキ  
ハ一里ニ付何錢ト記入スヘシ)  
右請求(受領)候也

何府縣何郡市何町村大字番邸

人力車營業人

何 某印

明治何年何月何日

仕拂命令官

岡山縣知事姓名宛

何府縣何郡市町村大字番邸

何刑何年 何 某

△本証書ハ何月何日何警察(分)署ヨリ護送ニ付同日又ハ全何日何警察(分)署ヨリ何警察(分)署へ護  
送ノ際疾病ニテ歩行スル能ハサル旨申立ツルニ因リ別紙醫師某ノ診定ニ依リ(或ハ醫師ノ診定ヲ  
要スヘキ所近傍醫師不在(又ハ)ニテ診斷セシムル能ハサルモ本職事實ト認定シ)乗車セシメタル  
モノニ相違無之候也

△明治何年何月何日

遞傳巡查何 某印

(備考) 醫師診斷料及藥價并ニ糶取雇給其他此書式ニ準ス

第三号書式(用紙半紙) 正副貳通壹通ハ無印ニテモ妨ケナシ

遞傳囚人諸費請求書

一金何 程

是ハ何年何月何日何警察(分)署ヨリ何警察(分)署へ囚人遞傳ノ際別紙受領証(仕拂証書第四号)  
通り繰替仕拂置候分  
右請求候也

何警察(分)署詰

遞傳巡查何 某印

又ハ

何警察(分)署長官氏 名印

(備考) 私印押捺ノコト見  
認印ニテ妨ケナシ

岡山縣知事姓名宛

(備考) 遞傳巡查肩書ノ警察署詰ニアラサルハ送金先即チ現住所郡町村大字番邸ヲ詳記スヘシ

第四号書式(用紙半紙) 正副貳通壹通ハ無印ニテモ妨ケナシ

遞傳囚人乘車賃仕拂証

何府縣何郡市何町村大字番邸

何刑何年 何 某

第十篇 第二章 囚人及刑事被告人留置護送費用

一金何 程

是ハ何年何月何日何警察(分)署ヨリ護送ニ付同日又ハ全何日常署ヨリ何警察(分)署へ護送ノ際  
何停車場ヨリ何停車場迄乗車セシメタル其普通下等賃金ノ半價  
右仕拂候也

何警察(分)署  
遞傳巡查何

某印

明治何年何月何日

第五号書式(用紙半紙) 正副貳通壹通ハ無印ニテモ妨ケナシ

一金何 程

是ハ集治監ニ入ルヘキ囚人遞傳護送諸費概算

右請求候也  
明治何年何月何日

何警察署長官氏

名 官印

仕拂命令官

岡山縣知事姓名宛

第六号書式(用紙適宜)

明治何年度集治監ニ入ルヘキ囚徒費概算受取金整理簿

年 月 日	摘 要	受	拂	残
明治何年何月何日	縣廳ヨリ概算金受入	一〇〇〇		一〇〇〇

、、、、、、、、、、、	囚人某賄料又ハ車馬賃何ノ誰渡		〇二〇〇	〇八〇〇
、、、、、、、、、、、	全派車賃遞傳巡查何ノ誰渡		〇三〇〇	〇五〇〇
、、、、、、、、、、、	縣廳ヨリ現金受入	〇五〇〇		一〇〇〇
、、、、、、、、、、、	囚人某賄料何ノ誰渡		〇五〇〇	〇五〇〇
、、、、、、、、、、、	決算殘金返納告知書第何号ニ依リ何金庫(納付)		〇五〇〇	〇
計		一五〇〇	一五〇〇	

(備考) 計ハ年度末概算金結了ノ時記入スヘシ  
第七号書式(用紙半紙) 正副貳通壹通ハ無印ニテモ妨ケナシ  
遞傳囚人諸費仕拂金請求書

一金何 程

是ハ何年何月何日常署ヨリ何警察(分)署へ囚人遞傳之際別紙受領証(仕拂証)何葉ノ通り  
仕拂候分

何警察(分)署長官氏

名 官印

右請求候也

明治何年何月何日

第八号書式(用紙半紙)

正副貳通壹通ハ無印ニテモ妨ケナシ

岡山縣知事姓名宛

遞傳囚人諸費決算証

一金何

内

受取高

金何程

仕拂高

是ハ別紙受領証何葉ノ通り

殘金何程

返納高

右決算シ殘金返納候也

明治何年何月何日

何警察(分)署長官氏

名官印

仕拂命令官

岡山縣知事姓名宛

○警部長達警規第一四號 廿四年三月廿七日

警察分署

本月十八日警甲第三號ヲ以テ警察署留置場ニ拘禁スル者ノ費用支辨方別紙之通内務書記官ヨリ通牒有之候條右ニ據リ取扱フヘシ

(別紙)

警甲第三號

警察署留置場ニ拘禁スル者ノ費用支辨方往々疑義ヲ生シ本省へ伺出又ハ當該局長へ照會スル等ノ

二十九年十一月十一日  
警甲第九十三號  
留置場改メ  
ヨリ通知スル  
長

向有之候處右ハ左ノ區分ニ依ルヘキ儀ニ付爲御心得此段ニ通牒候也

一 拘留狀ナキ一時ノ留置人ニ係ル費用 (食費療養費其他) ハ警察費

一 換刑禁錮因拘留囚及令狀ニ依リ留置スル者ノ費用 (食費衣服療養費其他) ハ監獄費

一 留置場建築修繕費ハ警察費

一 留置場常置ノ器具及臥具ハ監獄費

一本件ニ關スル事務費 (筆紙墨雇人) ハ警察費

明治廿四年三月十八日

内務書記官

岡山縣知事千阪高雅殿

追テ常置器具ノ内或ハ令狀ナキ一時留置人ニ用ユルモノナキニアラサルモ是等ハ主トシテ監獄則ニ依リ備付チナスモノニ付別段費途ノ區分ヲ要セス本文ノ如ク取扱ヒ差支ナキ儀ト存候

○警部長達警訓第五二五號 廿四年十月廿九日

(岡山 玉島 高梁 笠岡  
新見 津山 勝山)

本年二月警保局長通知ニ依リ現行犯人檢事へ送致ノ節檢事無止事故アリ即時訊問スル能ハサル場合最寄警察署留置場へ留置スル被告人ノ賄料ハ令狀執行前ニ付警察費ヨリ支辨セラル可シ

○警務課通牒警第一二五九號ノ一 廿七年五月十六日

(各署宛)

囚人傳遞護送費及無罪解放ノ者旅費ノ件ニ付奈良縣知事ヨリ伺出別紙ノ通指令相成タル旨警保局長

長ヨリ通牒有之候條爲御心得及御通牒候也

(別紙)

警監甲第一九號

囚人傳遞護送費及無罪解放ノ者旅費ノ件ニ付奈良縣知事ヨリ伺出別紙ノ通指令相成候條右様御承知相成度此段依命及通牒候也

明治廿七年五月十日

内務省警保局長小野田元熙

岡山縣知事千坂高雅殿

乾第四二號

囚人傳遞護送費及無罪解放之者旅費之件伺

一 甲縣監獄署ニ拘禁ノ囚人ニシテ乙縣ニ於テ餘罪發覺シ乙縣裁判所檢事ノ照會ニ依リ該地へ押送セシモノ同裁判所ニ於テ審理ノ末無罪ノ言渡相成タルモ前刑執行期限内ナルヲ以テ甲縣へ返還セシ途中傳遞護送ニ係ル費用支出之儀ニ付テハ廿年三月十日付山口縣ノ伺ヲ閱スルニ甲地在監輕罪因餘罪ノ發覺ニ據リ乙地裁判所ニ召喚審理ノ末其餘罪ハ免訴或ハ無罪ヲ言渡サレタルモ前刑執行ノ爲メ甲地監獄署へ返送<sup>中</sup>途中入費ハ甲地監獄費ヨリ支辨スヘキ乎將々沿道警察費ヲ以テ支辨シ可然哉トノ伺ニ對シ後段伺之通ト御指令有之尙又廿年九月廿二日付靜岡縣ヨリ甲廳已決囚ニシテ他ノ犯罪有之所在裁判所檢事ノ照會ニ依リ乙廳裁判所へ送致シ該事件落着シテ甲廳へ送還スル者ノ<sup>中</sup>送還中諸費ハ餘罪ノ爲メ送附スルヲ以テ沿道警察費ヨリ支辨可然哉又ハ甲廳監獄費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得可然哉トノ伺ニ對スル御指令ハ前段伺之通リト有之該御指令ニ據ルトキハ單ニ沿道府縣ノ警察費ヲ以テ支辨スヘキモノ、如ク相見へ候得共十五年二月第拾號公達囚人護送手續ニ基キ甲縣ヨリ乙縣へ護送途中ノ費用ハ同達第二條ニ適應ノモノト思考セラレ

候ニ付第十二條ニ依リ沿道地方警察費ヨリ支辨シ又乙縣ヨリ甲縣へ返還ニ係ル途中費用ハ第一條ニ相當ノモノナルヲ以テ第十一條末段ニ依リ乙縣監獄費ヨリ支辨ヘキ筋ト推考候處甲縣ヨリ乙縣ニ送致シタル途中費用沿道地方ノ警察費ヨリ甲縣監獄署へ請求ノ向往々有之候得共該費途支出區別ノ儀ハ前公達解釋ノ通取扱可然哉又ハ兩縣御指令ニ依リ取扱可然哉  
一 爰ニ甲地裁判所ニ於テ欠席裁判アリタル刑事被告人ヲ乙地裁判所ニ於テ逮捕セラレ其言渡ニ對シ被告入ヨリ故障ヲ申立タルニ依リ甲地裁判所へ押送セシモノ審理ノ末同名異人ナルコトヲ發見シ無罪解放セラレタル者アリ右ハ全ク人違ニ出テ拘致シタルモノナレバ明治九年五月第六十三號公達ニ基キ即チ甲地ヨリ乙地迄ノ歸途旅費ハ當然支給相成ヘキ筋ト思考致候果テ然ラハ本人ヨリ直ニ甲乙何レノ裁判所へ請求スルモ差支ナキ儀ナル哉  
右二件共目下差掛候儀ニ付至急御指令相仰候也  
明治廿七年一月二十日

内務大臣宛

奈良縣知事

内務省指令甲第一〇號

奈良縣

本年一月廿日乾第四二號何囚人傳遞護送費及無罪解放ノ者旅費ノ件左之通心得ヘシ  
第一項 甲縣ヨリ乙縣へ送付ニ係ル者ハ沿道警察費ヨリ支辨シ乙縣ヨリ甲縣へ返還ニ係ル者ハ甲縣監獄費ヨリ支辨スヘキモノトス

第二項 旅費支給スヘキ限ニ在ラズ

明治廿七年五月八日

内務大臣

○警部長達警第七一五号

廿八年三月三十日

第十篇

第二章

囚人及刑事被告人留置護送費用

六百七十九

(各署長宛)

客年三月三十日警第八四六号ヲ以テ刑事被告人護送中賄料其他ノ決議豫算額ハ警務課ヨリ通知有之候ニモ拘ハラズ溢リニ該金額ヲ超過シ支拂候向往々有之哉ニ相聞ヘ不都合ニ候右ハ豫算内ヲ以テ支辨シ難キ無止事情有之トキハ豫メ其理由ヲ具シ認可ヲ經テ支拂候儀ハ勿論ノ儀ニ候條心得違無之様注意セラルヘシ

(參照)

○内務書記官通牒鹿甲第二九号 廿六年四月五日

鹿兒島縣ヨリ已決囚押送費用之件ニ付伺出ニ對シ左記ノ通指令相成候條爲御心得此段及通牒候也  
鹿兒島縣伺 (廿六年三月四日)

- 一 鹿兒島地方裁判所ニ於テ有期徒刑十二年ノ處刑ヲ受ケ三池集治監ニ於テ服役中餘罪發覺シ當縣  
ヘ呼戻シ審理ノ末不論罪ノ言渡ヲ受ケ裁判確定ノ上再ヒ集治監ヘ押送シタル者有之候處右ハ初  
押送ノ時ト同シ刑ノ執行ヲナス爲メ押送シタル者ニ候得ハ歸途即當地ヨリ集治監迄ノ途中費  
用ハ府縣集治費ヲ以テ支辨致可然哉
  - 二 右ノ場合ニ於テ無罪ノ時ハ勿論有罪ノ言渡ヲ受ケタル時ト雖トモ前項ニ準シ府縣集治費ヨリ支  
辨致可然哉
  - 三 地方監獄相互ノ押送ニ於ケル右ノ如キ場合モ前二項ニ準シ其因刑執行地ノ府縣監獄費ヲ以テ支  
辨致可然哉
  - 四 換刑輕禁囚ヲ縣下某警察署ヨリ監獄ヘ逮捕押送ニ係ル途中費用モ前項ノ趣旨ニ原キ府縣監獄費  
ヲ以テ支辨致可然哉
- 指令 (明治廿六年四月五日)

本年三月四日乾第一〇七号伺已決囚押送費用ノ件一二三四項共伺ノ通

○内務書記官通牒警甲第八号 廿六年六月七日

廿三年(十月)内務省令第五号ヲ以テ重罪輕罪ノ控訴又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ヘ移サレタル者費  
用支辨方規定相成居候處裁判確定後ノ囚人原地方ヘ送還方ノ儀ハ瀛車涼船ノ設ケナキモ護送上便  
宜逃亡ノ憂ヒナキト見認ムルニ於テハ右省令但書ニ據リ取扱ヒ差支無之候依命此段及通牒候也

○主第四百八十二号 廿二年十二月十八日

拘留人賄料監獄則正條ニ依ラス下白米ヲ以テ仕賄候節取扱方之儀ニ付別紙之通第二部監獄課ヨリ  
通牒有之候間此段及通達候也

(別紙)

監乙第二百七十五号

拘留人賄費之儀ハ監獄則ノ正條ニ依リ一般可取賄ハ勿論ニ有之候得共一時取調ヲ要スル者等ニシ  
テ他ニ拘禁ノ犯人モナク臨時夫而已食糧定則ニ因リ難焚出際ニ限り下白米ノミナ給與シ而シテ賄  
費計算書ニハ當該官ニ於テ其事由ヲ摘載シ決算候事ニ這回定候間此段及御通牒候也  
明治二十二年十二月十四日

警察本部

御中

第一部 監獄課



第十篇

第三章

出納

第一節

縣經濟會計規則及附屬規程

明治廿六年三月廿一日

知事達警第二号

縣經濟ニ屬スル會計規則

全廿七年三月十二日

全警第七号

全細則

全廿八年三月廿一日

全警第一二号

縣稅外收入取扱規程

全廿九年三月八日

全警第三号

縣經濟ニ屬スル支出証明規程

全廿六年六月三十日

全廳第二四号

全收支豫定書調理順序

全廿八年四月廿八日

全警第八号

全會計檢査規程

全廿一年七月二日

警察部通知丁第四〇一号

金錢仕拂切符授受ノ節官私印押捺區別ノ件

全廿八年三月三十日

內務部長通知

警察費々目編入區分方

全廿九年一月廿四日

警部長達警第一九二号

全費中廳費流用伺出方ノ件





第十一 囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ  
第十二 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度入札ニ付スルモ尙豫定價格ノ制限ニ達セザルトキ

第二十九條 縣經濟ニ屬スル檢査方法ハ別ニ之ヲ定ム  
第三十條 縣經濟ニ屬スル現金ノ取扱ヲ爲サシムル爲メニ銀行又ハ資産ヲ有スル者ニ命令書ヲ下付シ縣金庫ヲ命スルモノトス但縣金庫事務規程ハ別ニ之ヲ定ム  
第三十一條 縣有財産管理規程則物品出納規程工事及物件賣買借入規程ハ別ニ之ヲ定ム  
第三十二條 本則ニ準據シ難キモノアルトキハ特ニ其取扱方法ヲ定ムルコトアルヘシ

○知事達警第七號 廿七年三月十二日

警 察 署  
全 分 署

縣經濟ニ屬スル會計細則別冊之通改正シ明治二十七年ヨリ施行ス

縣經濟ニ屬スル會計細則

第一條 縣廳外各府ニ係ル出納ノ命令ハ其長ニ委任ス  
第二條 縣出納吏ハ縣廳ハ內務部第四課長監獄署ハ第三課長郡役所警察署全分署監獄支署ハ各其長市ハ市長(督促令狀納期限以前ニ納付スル地方稅ヲ總テ除ク)トス  
縣立尋常師範學校全中學校縣立病院ノ縣出納吏ハ其長ニ於テ經伺ノ上定ムルモノトス  
第三條 規則(縣會計規則ヲ云)第十五條ノ支出ヲ要スルモノアルトキハ第壹號書式ニ據リ承認ヲ受クベシ

廿九年三月  
訓令甲第七  
十一號  
第一條  
刪除

第五條 分任出納命令官ニ於テ經費中項目豫算ノ流用ヲ要スルモノアルトキハ其事由ヲ具シ第四號書式ニ據リ計算書ヲ製シ承認ヲ受クベシ  
第六條 豫算外臨時ノ増費ヲ要スルモノアルトキハ詳細事由ヲ具シ第五號書式ノ計算書ヲ製シ請求スルコトヲ得

第七條 過誤納金ノ拂戻ヲ要スルモノアルトキハ左ノ區別ニ據リ處理スヘシ

一 出納閉鎖前ニ係ルモノハ通常仕拂ノ手續ニ依リ之ヲ仕拂ヒ收入高ノ内ヨリ扣除スヘシ  
一 出納閉鎖後ニ係ルモノハ第六號書式ノ請求書ヲ製シ提出スヘシ

第八條 規則第廿四條ノ収支ヲ要スルトキハ第七號及第八號書式ニ依リ請求書ヲ製シ承認ヲ受クベシ

第九條 規則第二十五條ノ仕拂ヲ要スルモノアルトキハ第九號書式ノ計算書ヲ製シ提出スヘシ

第十條 第三條第五條第八條ノ承認ヲナシタルトキハ同時ニ縣出納吏若クハ縣金庫ニ令達スヘシ  
第六條及第七條ノ第二項ヲ許可シタルトキ亦同シ

第十二條 規則第廿四條第一項ノ承認ヲ得タルトキハ第十號書式ノ特別命令書ニ納付書ヲ添付シ縣金庫ヘ送付シ一旦拂出ノ上受入ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 仕拂命令ハ出納命令官ノ決裁セル書面ニ基キ第十一號甲乙丙ノ書式ニ據リ之ヲ發スヘシ

第十四條 仕拂命令ハ正當ナル債主若クハ其代理人ノ爲ニアラサレハ發スルコトヲ得ス  
第十五條 仕拂命令ハ之ヲ發スル前左ノ各項ヲ調査スヘシ

一 仕拂フヘキ經費ハ正當ニシテ必要ナルヤ  
一 仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ  
一 豫算ニ定メタル目的ニ違フコトナキヤ

廿九年三月  
訓令甲第十  
六號  
第二條  
刪除

廿九年三月  
訓令甲第七  
九號  
第十條  
改正

廿九年三月  
訓令甲第七  
號  
第七條  
改正

廿九年三月  
訓令甲第七  
号ニテ第七  
十條中追加

一 支出科目及所屬年度計算ニ誤ナキヤ

一 工事ノ既済部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ代價ノ幾分ヲ仕拂フトキハ契約書及相當官吏ノ作リタル調書ニ適合スルヤ尙其契約及調書ノ成規ニ違フコトナキヤ

第十六條 集合仕拂命令ニ係ルトキハ第十二号書式ニ據リ金額氏名表ヲ添付スヘシ

第十七條 仕拂命令ニハ支出ノ證據ニ必要ナル書類ヲ添ヘ仕拂命令官ヨリ縣出納吏ニ交付スヘシ

第十八條 縣出納吏前條ノ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ左ノ順序ニ據リ調定スヘシ

一 仕拂命令ノ様式ニ違フコトナキヤ

一 仕拂命令ト案内仕拂命令ト照合シ年度科目金額其他記載ノ事項相違スルコトナキヤ

一 仕拂豫算ノ殘額ニ超過スルコトナキヤ

一 仕拂命令ト其命令ニ添付シアル証憑書類トヲ照合シ其經費ハ正當ニシテ仕拂ノ方法其他成規ニ違フコトナキヤ

一 年度科目計算ニ誤ナキヤ

第十九條 縣出納吏前條ノ調定ヲ了リタルトキハ縣出納吏支出簿ニ登記ヲ爲シ之ニ「調定済」ノ印ヲ捺シ署名捺印シテ仕拂命令ト案内仕拂命令トヲ切離シ受領証書ト引換ニ之ヲ受取人ニ交付シ同時ニ案内仕拂命令ヲ縣金庫ニ送付スヘシ

第二十條 集合仕拂命令ヲ以テ各債主ニ仕拂ヲ爲ストキ及ヒ仕拂命令ヲ當テタル縣金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲナス爲メ送金ヲ要スルトキハ仕拂命令ヲ縣金庫ニ送附シ仮受領証ヲ徴シ置キ追テ各債主ノ受領証ト交換スヘシ但送金ヲ要スルモノハ仕拂命令送付ニ先チ豫テ印鑑ヲ徴シ置キ請求書ト契印シテ仕拂命令送付ト同時ニ縣金庫ヘ送付スヘシ

前項ノ仕拂命令及各債主ノ受領証ノ受授ハ適宜帳ヲ以テ代用スルコトヲ得

廿九年三月  
訓令甲第七  
号ニテ第七  
三條第二項  
改正

縣出納吏第一項ノ仕拂命令ヲ受ケタルトキハ第十三号甲乙ノ書式ニ依リ領收証書用紙ヲ製シ債主ニ交付スヘシ

第二十一條 規則第廿二條但書ニ據リ交換期限經過ノ仕拂命令ヲ以テ仕拂ヲ請求シタルトキハ第十四号書式ノ裏書ヲナシ之ヲ交付スヘシ

亡失毀損ニ係ル仕拂請求書ヲ提出シタルトキハ之ヲ調査シ第十五号書式ノ証明ヲナシ交付スヘシ

第廿二條 領收証書ノ用紙ヲ亡失毀損シタルトキハ左ノ區別ニ據リ處理スヘシ

一 債主ヘ送附中ニ係ルモノハ金庫ノ仕拂ヲ停止シ置キ再發シテ交付スルト同時ニ其停止ヲ解クヘシ

一 債主受取後現金落手以前ニ係ルモノハ其旨詳記シタル書面ヲ以テ縣金庫ニ提出セシメ縣金庫ニ於テ現金未拂ナルニトテ証明シテ縣出納吏ニ送付シ縣出納吏之ヲ証明シテ縣金庫ニ還付ス縣金庫ハ債主ヨリ適宜ノ受領証書ヲ徴シ現金ヲ交付スルモノトス

一 債主ヨリ縣金庫ニ發送中ニ係ルモノハ更ニ適宜ノ受領証ヲ縣金庫ニ發送セシムヘシ

第廿三條 現金前渡概算簿ノ殘金繰替金及ビ過誤拂金等ハ第十六号書式ノ返納告知書臺帳ニ記入シ第十七号書式ノ返納告知書ヲ發シ縣出納吏ヲ經テ返納人ヘ交付セシムヘシ

返納告知書ニ現金ヲ添ヘ納人ヨリ指定ノ金庫ヘ納付シタルトキハ縣金庫ヨリ領收ノ通知ヲ受クヘシ

第廿四條 現金ヲ取扱フ各庫ニ於テハ堅牢ナル金函ヲ備ヘ其保管ニ係ル現金ヲ藏置スヘシ

第廿五條 前條各庫ノ縣出納吏ハ現金受拂簿ニ照ラシ現在金ヲ査閲シ金函ノ鎖鑰ヲナシ取扱員ト共ニ封緘ノ上之ヲ保管スヘシ

第廿六條 縣出納吏現金ヲ以テ收入金ヲ受ケタルトキ縣金庫所在地ハ毎日所在地外ハ近便ヲ以テ

廿九年三月  
訓令第七  
九條第三  
一係第三  
二條第十  
三條修正

第十八号書式ノ納付書ヲ製シ區域内ノ縣金庫ニ拂込ムヘシ  
第廿七條 縣金庫ノ設ケナキ各縣ノ縣出納吏現金前渡ヲ受ケントスルトキハ第十九号書式ノ仕拂  
請求書ヲ提出スヘシ

第廿八條 縣出納吏ハ第二十号第二十一号ノ書式ニ依リ毎月取扱ヒタル收入支出報告書ヲ製シ縣  
金庫月計對照表ヲ添ヘ翌月五日迄ニ提出スヘク異動ナキトキハ其旨全日迄ニ届出ツヘシ  
縣廳ノ縣出納吏ハ前項ノ報告書ヲ取纏メ第廿二号第二十三号書式ニ依リ收入支出ノ集計表ヲ製  
シ翌月二十五日迄ニ提出スヘシ

第廿九條 規則第廿六條ノ決算書及明細書ハ第廿四号(甲乙丙丁)第廿五号(甲乙)及付屬書式ニ據  
リ調製スヘシ

第卅條 縣出納吏交替ヲナシタルトキハ十日以内ニ後任縣出納吏ニ事務ノ引繼ヲナスヘシ但前任  
縣出納吏自ラ引繼ヲナス能ハサル場合ニハ所屬出納命令官他ノ吏員ニ命シ引繼ヲナシムヘシ  
第三十一條 前條ノ引繼ヲ了リタルトキハ第二十六号第二十七号書式ノ引繼計算書三通ヲ製シ前  
任後任連署ノ上各一通ヲ所持シ一通ヲ提出スヘシ  
各縣ニ係ルモノハ所屬分任出納命令官ニ提出シ該命令官ハ調査ノ上本廳ニ差出スヘシ

第三十二條 縣廳外縣金庫所在地各縣ノ縣出納吏ハ左ノ帳簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

- 一 縣出納吏收入簿 第二十八号書式
- 一 縣出納吏支出簿 第二十九号書式
- 一 縣出納吏支出内譯簿 第三十号書式
- 一 概算前金渡線替渡整理簿 第三十二号書式
- 一 證書未到達整理簿 第三十三号書式

前各項ノ外便宜補助簿ヲ設ケ整理スヘシ  
縣廳外縣金庫設置ナキ各縣ノ縣出納吏ハ左ノ帳簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

- 一 現金受拂簿 第三十四号書式
- 一 縣出納吏收入簿 第二十八号書式ニ據ル
- 一 縣出納吏支出簿 第卅七号書式
- 一 概算渡線替渡整理簿 第卅二号書式ニ據ル
- 一 證書未到達整理簿 第卅三号書式ニ據ル

第卅三條 前各項ノ外便宜補助簿ヲ設ケ整理スヘシ  
縣廳ノ縣出納吏ハ左ノ帳簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

- 一 原簿 第四十号書式
- 一 日計簿 第四十一号書式
- 一 縣出納吏收入簿 第二十八号書式ニ據ル
- 一 縣出納吏支出簿 第二十九号書式ニ據ル
- 一 縣出納吏支出内譯簿 第三十号書式ニ據ル
- 一 歲入簿 第四十三号書式
- 一 歲出簿 第四十五号書式
- 一 公債證書受拂簿 第四十七号書式
- 一 借通入郡別簿 第四十八号書式
- 一 備荒儲蓄支出類別簿 第四十九号書式
- 一 概算前金渡線替渡整理簿 第三十二号書式ニ據ル

一 證書未到達整理簿  
前各項ノ外便宜補助簿ヲ設ケ整理スベシ

第三十三号書式ニ據ル

(書式畧ス)

○知事訓令警第十貳号 廿七年三月廿一日

警 察 署  
全 分 署

縣稅外收入取扱規程左ノ通改正シ明治廿七年度ヨリ施行ス

縣稅外收入取扱規程

第一條 縣稅外收入ハ第一号書式ノ測定臺帳ニ依リ第二号書式ノ納額告知書ヲ發シ納人ヲシテ縣金庫ニ納付セシメ縣金庫ヨリ領收ノ通知ヲ受クベシ

但貸座敷并娼妓賦金ハ一人別仕譯書ヲ添付シ該取締人へ發スルコトヲ得

第二條 縣金庫設置ナキ各廓ニ於ケル收入又ハ納額告知書ヲ發シ難キ場合ニ於テハ第三号書式ノ納付書ニ依リ直ニ收納シ又ハ第四号書式ノ納付書ヲ以テ縣金庫へ拂込マシムルコトヲ得

但縣金庫へ拂込ミタルトキハ縣金庫ヨリ領收ノ通知ヲ受クベシ

第三條 縣出納吏現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ縣會計細則第二十六條ノ手續ヲ履行スベシ

第四條 貸座敷并娼妓賦金名簿ハ第五号書式ニ據リ調製スベシ

第五條 縣會計細則第二十九條第二十四号書式歳入決算書ニハ第六号書式ノ明細書ヲ添付スベシ

第六條 前各條ニ掲クルモノ、外ハ縣會計規則全細則ノ規定ニ據ル

(書式畧之)

廿九年三月  
訓令甲第七  
号ニテ本規  
程中改正

○知事訓令警第三号 廿七年三月八日

警 察 署  
全 分 署

縣經濟ニ屬スル支出證明規程別冊ノ通改正シ明治二十七年度ヨリ施行ス

縣經濟ニ屬スル支出證明規程

第一條 縣出納吏ハ本規程ニヨリ毎月支出ノ証憑書類ヲ整理シ各廓ニ係ルモノハ所屬分任仕拂命令官ニ提出シ命令官ハ調査ノ上翌月十日迄ニ本署ニ差出スベシ

第二條 支出上証憑書類トシテ提出スヘキモノハ正當受取人ノ受領証及工事物件ノ賣買借入ニ關スル各種契約書其他事實ノ正確ヲ証スル書類トス

第三條 証憑書類ハ原本ニ限ル若シ其原本ヲ提出シ難キトキハ當該上官ノ認定アル謄本ヲ以テ代用スルコトヲ得

第四條 事實上正當受取人ノ受領証書ヲ得難キ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記セル主任官吏ノ仕拂書ニ當該上官ノ認定ヲ受ケテ之ヲ證明スベシ

第五條 証憑書類ハ可成半紙形ヲ用ヒシムベシ

第六條 証書中ニ記載スル金員又ハ物數ハ必ス壹貳參拾貳拾參拾ノ字体ヲ用ヒシムベシ

第七條 証書ハ描改塗抹ヲ禁ス若シ誤記脱字等アリテ訂正ヲ加ヘタルトキハ本人ノ証印ヲ捺サシムベシ

第八條 証書ノ文字ハ鉛筆其池總テ字体ノ消散シ易キモノヲ用ヒシムヘカラス

第九條 土木工事建築修繕費ノ類ハ設計書竣功明細書ヲ添付スベシ

第十條 工事及物件ノ賣買借入ニ關スル競争契約書ニハ左ノ書面及公告書ヲ添付スベシ

但再入札ノ場合ハ第一入札ノ分モ添付スヘシ

一 豫定價格調査

一 落札以下三番札迄

第十一條 過年度ニ屬スル經費又ハ過課納ノ拂戻ヲ爲シタルモハ受領證書ニ其事由ヲ附記スヘシ  
第十二條 供給其他給與ニ屬スル支出ニシテ任免黜陟死亡欠勤増給減給等ノ事故ニヨリ給額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其事由及年月日ヲ受領証ニ附記セシムベシ

退官賜金ヲ受クル退官者ニ對シテハ其履歷書新任者ニ對シテハ其資格ヲ要スルモノハ事由又ハ証書ノ原本ヲ添附シ轉任昇級者ニ對シテハ各其前級發令ノ年月日ヲ受領證書ニ附記セシムベシ

第十三條 恩給年金ノ支出ニハ其年額渡期受領者ノ舊官等又遺族ノ受領ニ係ルモノハ其權利起因ノ人名官等其他受領者ノ轉入轉出權利ノ停止消絶及復給アルトキハ其年月日事由ヲ詳記シタル明細書ヲ添付スヘシ

第十四條 諸手當其他賞與慰勞金等ノ類ニシテ給額ノ確定セルモノハ受領書ニ其事由ヲ附記シ臨時支給ニ係ルモノ、如キハ其事由ヲ認メ得ヘキ決議書類ヲ添付スヘシ

第十五條 旅費受領証ニハ其用務及旅行ノ日數年月日里程運程宿泊場所ヲ詳記シ首席者ノ認印アルモノタルベシ

迂路ヲ經テ旅行シ又ハ病氣滯在在其他ノ事故ニヨリ公務外日數ヲ要シタルトキ若シクハ旅費ノ實費拂ヲ要スルトキハ當該上官ノ認許書ヲ添付スヘシ

第十六條 物件買上代借入料ニ關スル受領証ニハ每品ノ種類個數量目及單價ヲ掲記セシムヘシ但數個ニ付價格ヲ定メタルモノハ其個數ニ對スル價格ヲ示シ又割引ニ係ルモノアルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

第十七條 印刷費贈寫料ノ受領証ニハ其印刷贈寫ノ品名及紙數部數并單價ヲ詳記セシムヘシ但數部ニ對シ價格ヲ定メタルモノハ其價格ヲ附記セシムヘシ

第十八條 運搬費ノ受領書ニハ其運搬ノ年月日及品目數量發着地名里程及賃錢ノ單位等ヲ詳記セシムヘシ

第十九條 送金手数料ノ受領書ニハ其送金ノ件名員額及年月日發着地名ヲ詳記セシムヘシ

第二十條 諸拂戻及缺損補填金ノ領收證書ニハ其決定ヲ達シタル年月日支出ヲ要スル事實計算ノ基ク所其發生ノ年月日等ヲ詳記スヘシ

第二十一條 前各條ニ據リ難キ事項ハ適實ノ方法ヲ以テ各其計算ノ基ク所及支出必要ノ事由ヲ詳記セシムヘシ但事項複雜ニ涉ルモノハ明細書ヲ添附シ又臨時特殊ニ係ルモノハ知事ノ命令書認許証又ハ所屬分任任拂命令官ノ決議書等ヲ添附シ又品名ニテ分明ナラサルモノハ其用途ヲ朱記説明スヘシ

第二十二條 支出ノ証憑書類ハ各目ニ區分編纂シ貳号書式付屬ノ一乃至四ニ據リ表記スヘシ  
任拂證書中未到達ニ屬スル領收證書ノ到達セシ分ハ其到達ノ月ヲ以テ取纏メ別冊トナシ其月中ノ精算證書ト區分スヘシ

第二十三條 現金前渡概算渡ニ關スル証憑書類ハ精算證書ト區分シ各別冊トナシ左ノ如ク整理スヘシ  
一 現金前渡、概算渡證書ハ各目ニ區分シ其表紙ニ現金前渡又ハ概算渡ト記入スヘシ  
但縣廳ノ縣出納吏ハ現金前渡ノ分ニ限り項ヲ以テ區分スルモノトス

二 精算證書ニハ當初證書ノ金額任拂命令ノ番號年月日ヲ附記シ各目ニ區分スヘシ  
三 精算證書ハ一ヶ月分宛取纏メ別冊トナシ其月通常ノ任拂證書ト區分スヘシ

第二十四條 証憑書類中若シ科目ノ混合セルモノアルトキハ之ヲ甲科目ニ編入シ(乙科目ノ分ハ金員ノ肩ニ其科目



ヲ朱  
記ス) 乙科目ニ係ル分ハ其金員及其他本證書ニ記載ノ事項ヲ朱字ニテ騰寫シ之ヲ乙科目ニ編入  
スヘシ但任拂命令ノ年月日番號調定交付ノ年月日年度科目等記入スルハ勿論タルヘシ  
第廿五條 證書書ニハ年度款項目及ヒ任拂命令番號發行年月日調定交付ノ年月日等ヲ記印スヘシ  
第廿六條 物件買入代ノ証憑書ニハ備品出納簿及消耗品出納簿等ニ受入ノ登記ヲナシタル年月日  
簿名ヲ記シ主任者捺印スヘシ但出張先ニ於テ購入ノ際直ニ消費シ出納簿ニ登記ヲナサ、ルモノ  
、如キハ其理由ヲ記載シ置クヘシ

第廿七條 證明ノ爲提出スル任拂計算書類ハ第一号乃至第三号書式ニ據リ調製スヘシ  
第廿八條 前條ノ計算書類ニ誤記脱字アリタルトキハ朱書ヲ以訂正ノ上主任官吏捺印スヘシ  
(書式略之)

○知事達廳第貳拾四號 廿六年六月三十日

内務部  
警察部  
監獄署

本年三月相達候縣經濟ニ屬スル會計規則第六條ニ據ル收支豫定書調理順序左之通心得ヘシ

縣經濟ニ屬スル收支豫定書調理順序

第一項 各部署ヨリ提出スヘキ毎年度收支豫算豫定書ハ第二項以下ニ據リ各課掛限リ取調明治十  
五年(十一月)内務大廳兩省乙第七拾貳號達地方稅豫算書及別紙任譯書ヲ調製スヘシ  
第二項 豫定經費ヲ算出スルハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示  
スヘシ但營繕又ハ土木ニ係ルモノハ必要ノ理由及精確ナル任據帳ヲ別冊トシテ添付スヘシ

第三項 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又物件ニ屬スルモノハ一個當リ  
ノ價格ヨリ積算スヘシ

第四項 一人當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基礎トシ又規定ノ給  
額ナキモノハ各其據ル所ヲ示スヘシ

第五項 一個當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價格ヲ基礎トシ又規定ノ價格ナ  
キモノハ調査當時ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ

第六項 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ其定員ニ據リ定員ナキモノハ前年度四  
月一日ノ現在人員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時備入及解備ノ必要アルトキハ其基  
所ノ理由ト人員ヲ示スヘシ

第七項 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ個數アルモノハ規定ノ個數ニ據リ規定ノ個數ナ  
キモノハ前々年度以前三個年度間ニ實際使用ニ供シタル個數ノ平均ヲ標準トスヘシ

第八項 指定ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員旅費等級里程及日數ヲ概定シ臨時ノ旅行ニ係  
ルモノハ旅費等級毎ニ前三年度ノ旅行里程日數ヲ標準トシテ豫算スヘシ

第九項 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ金額ノ定マリタルモノハ其金額ヲ以テ豫算スヘシ

第十項 傳染病豫防費ノ如キ不定ノ費用ハ前年度通常豫算ニ準據スヘシ

第十一項 三ヶ年度ノ平均額ニ據リ難キモノ 三ヶ年中ニ費途ノ 組込ナキモノ、類  
ニ據ルヘシ

第十二項 前各項ニ據ルヘカヲサレ經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ  
第十三項 經費中人員個數其他計算ノ基ク所ハ總テ備考ニ詳記シ尙之ヲ盡ス能ハサルモノハ別冊  
ヲ以テ委詳陳述スヘシ

第十四項 説明書ハ款ニ就キ大体ヲ説明シ節ナキモノハ目目節ナキモノハ項ニ依リ其増減理由ヲ

一々詳記説明スヘシ

第十五項 第一項豫定書調理ノ所管ヲ定ムル左ノ如シ

(中 略)

警察部警務課

一 警察費

一 警察廳舎建築修繕費

一 右ニ屬スル雜收入

一 國庫下渡金

第十六項 建築ハ勿論修繕ト雖トモ一應金五拾圓以上ヲ要スヘキ見込ノモノハ建築及修繕目録見

仕様書ヲ以テ第二課土木掛ニ回付シ技術者ノ檢閲ヲ經而シテ各所屬ノ經費中ニ編入スヘシ

第十七項 第十五項ニ掲載スルモノ、外縣經濟ニ屬シ縣會ノ議ニ付スヘキモノハ各主管ニ於テ取

調收支豫定書ト同時ニ提出スヘシ但備荒儲蓄施行規則ハ第一課庶務掛及第四課地方費掛ニ於テ

連帶調理スヘシ

說明

第一款 警察費

本年度豫算ヲ以テ前年度豫算ニ比シ金何程(増)(減)スルハ何々ノ理由ニ依ル尙目節ニ就キ詳

細説明スル左ノ如シ

一 巡查月給ノ前年度豫算ニ比シ金何程(増)(減)スルハ何々ノ理由ニ依リ云々ト其増加減少

ノ生スル要旨ヲ詳記調製スヘシ

一 何々云々

第二款 以下説明前項ノ例ニ依リ調製スヘシ

備考

一 本表ハ從來ノ豫算明細書ノ費目ヲ標準トシ款項目節ニ區分調製シタルモノニ付將來科目ニ増減ヲ生スルトキ増加スヘキモノハ本表ニ依リ相當科目中ニ挿入シ減スヘキモノハ之ヲ削除スヘキモノトス

本表俸給雜給中二人以上ニ支給スル金額同一ナラサル見込ノモノハ備考欄内(月給)(日給)(一度)支給金額ノ上ニ平均ノ二字ヲ記載スヘキモノトス平均ノ二字ナキモノハ同一ノ支給ト見做スヘシ

一 本表中備品ト稱スルモノハ概テ左ノ如シ

椅子、卓子、簿記臺、書籍、文箱、戸棚、水桶、盥、釣瓶、手桶、窓掛、卓子掛、時計、火鉢、煙草盆、帽子掛(家屋へ取付)、傘立、各種ノ印章、版木、臥具、水瓶、土瓶、茶碗、茶盆、炭取、火箸、柄杓、裁臺、庖丁、砥石、打盤、糊板、刷毛、帚、點火器、書籍、官報、新聞、繪圖、文具其他器具器械ノ類

一 同消耗品ト稱スルモノハ概テ左ノ如シ

筆、紙、墨、印肉、薪、炭、油、蠟燭、生鉄、マッチ、燈心、綴糸、綴金、糊、草履、藥品、綿袋、膠、リ、スリン、給具、インキ、ペン先、雜巾、釣瓶繩、

一 本表中寄附金ハ其指定ノ細小科目中ニ朱記スヘシ

○知事達警第八号

廿六年四月廿八日

警察分署

縣經濟ニ屬スル會計檢査規程別紙之通相定メ明治二十六年度ヨリ施行ス

縣經濟ニ屬スル會計檢査規程

第一條 縣會計規則第二十七條ニ據リ縣經濟ニ屬スル一切ノ會計ヲ檢査セシムル爲メ檢査委員ヲ置ク

檢査委員ハ委員長一人委員若干員トシ委員長ハ高等官委員ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ但委員ノ事務ハ雇員ヲシテ補助セシムルコトアルヘシ

第二條 檢査ノ事項左ノ如シ但臨時檢査ヲ要スル事項アルトキハ特ニ之ヲ命ス

一 歳入歳出ノ決算

二 財産物品ノ消長

三 出納吏ノ計算

四 縣有資金ノ計算

五 縣金庫ノ計算

第三條 檢査員ハ檢査上必要ナル簿書其他ノ書類ヲ檢閲シ又主任者ニ向テ辨明ヲ求ムルコトヲ得但臨時必要ト認ムルトキハ知事ノ認可ヲ經テ實地檢査ヲナスコトヲ得

第四條 檢査員檢査ヲ了リタルトキハ其成績書ヲ製シ知事ニ提出スヘシ其成績書ニ記載スヘキ要領左ノ如シ

一 收支命令官ノ決算報告書ノ金額ト各出納吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ  
二 歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用縣有財産物品ノ得有沽賣讓與及利用ハ各其豫算ノ規定又ハ法

律命令ニ違フコトナキヤ否ヤ

三 縣金庫ノ現在金ハ帳簿ト符合スルヤ否ヤ

第七條 檢査員縣金庫ニ臨檢スルトキハ知事ノ命令書ヲ携帶シ該金庫ヨリ請求アルトキハ之ヲ示スヘシ

○警察部通知第四〇一號 二十一年七月二日

警察分署  
巡查教習所

金錢仕拂切符受授之節代人ノ區分并ニ官私印押用方別紙之通會計主務官ヨリ通知有之候條該決定書ニ依リ取扱フヘシ此段及通知候也

(別紙)

第壹號

凡テ金錢支拂切符受授ノ節代人ノ區分并ニ官私印押用方自今左記ノ通決定相成候條御承知有之度此段及御通知候也

明治廿一年六月廿六日

岡山縣會計主務書記官妻木須介

警部長渡邊住介殿

- 一 一人ノ資格ヲ以テ受授スル俸給旅費等ノ證書ニハ私印ヲ用ユルモノトス
- 一 職務上ヲ以テ受授スル經費金受領証等ハ官印ヲ用ユルモノトス
- 一 一人ノ資格ヲ以テ受授スルモノニシテ代理人ナルトキハ委任狀ヲ要スルモノトス兩シ

テ其委任狀ハ正書又ハ謄本ヲ徴ス

- 一 職務上ニ於テ受授スルモノニシテ代理人ナルトキハ其代人ヲ指定シタル添書ヲ要ス  
但廳中ニ於テ取扱フモノ、如キハ憑書ニ署記スルモ妨ケナシ

○内務部長通牒

廿八年三月三十日

各署長宛

縣經濟ニ屬スル建築修繕費其他支出上費目編入區分往々疑義ニ涉リ候モノ左記ノ通廳議決定候條  
廿八年度ヨリ左ニ依リ御整理相成度此段及通牒候也

- 一 建築修繕費ニ屬スベキ分
  - 竈地盤ヨリ建築煙筒全 硝子燈全 日覆、井戸替、溝渠浚鑿、廣告手数料、建築修繕ニ屬スル分 材料
  - 運送費
- 一 備品費ニ編入スベキ分
  - 釣瓶、窓掛、帽子掛(据置、)傘立、臥具、砥石、刷毛、帚、竈据置ノ煙筒全(取付費ハ)爐据置(モノ) 爐据置上(修繕費)
  - 水流全 履物棚全 井戸蓋、井戸車、往來留建札、門標、掛札、硝子燈、(門柱等ニ取付タルモノ)
  - 消耗品費ニ編入スベキ分
    - 筆、紙、墨、印肉、綴糸、綴金、草履、藥品、ペン先、雜巾、治療用綿袋、海綿(治療用共)釣瓶繩
  - 一 圖書及印刷費ニ編入スベキ分
    - 書籍、官報、縣報、新聞紙、簿記帳、常用對紙摺賃、諸表帳簿、達書、小切符ノ類ヲ紙代印刷代トモ受負タルモノ

○警部長達警第一九二號

廿九年一月廿四日

警察分署

警察費中廳費第一目備品費第二目消耗品費ノ内月額需用費殘餘ヲ以テ雜品代同第六目雜費ノ内他家料ノ殘餘ヲ以テ取締鑑札及標木製作費ニ支出セントスルトキハ前以テ伺出候儀ト心得ヘシ

第十篇

第三章

第二節

縣經濟ニ屬スル土地建物物品會計ニ關スル規程

明治廿二年五月八日

知事 達 甲第一七号

土地建物并備品消耗品管理順序

全 日 三月廿八日

知事訓令 内第九号

縣經濟ニ屬スル物品出納規程

全 日 三月三十日

内第一〇号

全 物品出納證明規程

全 日 一月廿五日

警部第一号

全 縣廳物品出納順序

全 日 二月廿九日

警部長達 第二七号

備品ハ華備ノ品質ヲ用ヒズ消耗品ハ多數翌年度  
ハ繰越サ、ル様注意方

全 日 三月十九日

第一四号

分署ニ於テ官報購讀方  
新聞紙ハ縣下ニ於テ發兌スルモノ、外購求  
不相成

全 日 七月十日

内務部長通知 四地第二二五号

共用トシ交付スル物品整理方

全 日 四月一日

全 四地第一五五号

出納官吏概算渡ヲ受クルハ規則違背ナル件

全 日 四月四日

知事 達 廳第二一号

物品購入ハ可成入札ニ付スル件

明治廿七年  
六月廿六日

警部 長 達  
警第一七〇一號

法令全書購買方

全 日

全 警第一七〇二號

不用新聞紙公賣方

全 年  
七月十八日

通 警務課長  
知

法令全書代金前金拂ノ件

○知事達甲第一七號

廿二年五月十八日

警 部  
分 察 署 課

地方税并備荒儲蓄經濟ニ屬スル土地建物并備品消耗品管理順序左ノ通相定ム

土地建物并備品消耗品管理順序

第一項 地方税并備荒儲蓄經濟ニ屬スル土地建物備品ハ各主管スル所ニ土地臺帳建物臺帳備品臺帳消耗品元帳ヲ備置クヘシ

第二項 土地臺帳ニハ購入ノ年月日購入代價町村名土地ノ番号字地目反別(地價アルモノハ地價地租)ヲ記入シ地圖面ヲ添付スヘシ

第三項 建物臺帳ニハ購入ノ年月日又ハ建築ノ年月日建物坪數構造ノ種類及費用等ヲ記入シ建物平面圖ヲ添付スヘシ

第四項 備品臺帳消耗品元帳ノ様式ハ知事ノ認可ヲ受クヘシ様式ニハ購入年月日購入代價并物品破損等アルトキハ其年月日ノ記入ヲ要ス

第五項 備品ヲ所用者ニ貸與スルトキハ受領証ヲ取置クヘシ  
第六項 備品ハ毎年三月中ニ於テ臺帳ニ照査スヘシ  
第七項 備品ハ臺帳ニ記入ノ上仕用スヘシ臺帳ニハ主任者并上席者認印スヘシ尤物品ニ破損等アルトキハ主任者ニ於テ實査シ帳簿ニ記入シ主任者并上席者認印スヘシ  
第八項 毀損又ハ廢務ノ變更ニ依リ不用ニ屬スル物品ニシテ將來必要ノ目的ナキモノ又ハ保管ニ差支アルモノハ品目ニ公賣代價見込ヲ付シ處分方伺出ベシ  
第九項 消耗品ハ購入ノ時消耗品元帳ニ記入ノ上所用者ヨリ請求スルトキハ消耗品渡帳(渡帳ハテ以テ種類ヲ區分スヘシ)ヲ以テ受授スヘシ尤毎月末日ニハ帳簿ニ集計ヲ爲シ現在高ト現物品ト照査スヘシ

○知事訓令内第九號

廿八年三月十一日

警 察 署  
同 分 署

縣經濟ニ屬スル會計規則第二十九條ニ據リ物品出納規程別冊ノ通相定メ二十八年度ヨリ施行ス但シ從前ノ令達ニシテ本令ニ牴觸ノモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

縣經濟ニ屬スル物品出納規程

第一條 此ノ規程ニ於テ物品ト稱スルハ縣經濟ニ屬スル一切ノ動産ヲ總稱シ分ツテ備品消耗品ノ二種トス但シ動物又ハ特ニ使用ノ目的アル物品ハ其ノ區分ニ據ル物品ハ每費途(費目)及箇所別ニ區分整理スヘシ

第二條 物品ノ出納ハ現ニ出納シタル日ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテチ一年度トス

三十一年三月  
第十六日訓令  
甲第六號ニ  
テ第一條第  
三條第六條  
第十四條第  
四條第廿六  
條第廿七條  
修正第九條  
第廿九條改  
第十條別除

第三條 物品ノ出納ハ消耗賣却亡失毀滅生産ノ爲メノ消費等物品出納吏ノ保管ヲ離ル、テ出トシ  
買入生産等其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第四條 前條生産トハ或ル物品ノ稱呼ヲ變テ成立シタルモノヲ指稱シ生産ノ爲メノ消費トハ其原  
品ノ支出ヲ云フ

第五條 物品中類似ノ品目ハ同名稱ヲ以テ集合シ記號ヲ以テ之ヲ分類スルコトヲ得

第六條 單位稱呼ハ諸用紙ハ枚、郵便切手全端書ハ厘、ト定メ其他ハ適宜小位ヲ以テスルモノトス

第七條 物品ノ出納ハ總テ知事命令スルモノトス

第八條 前條出納ノ命令ハ縣廳外各廠ニ係ルモノハ各其ノ長ニ委任ス

第九條 物品ノ保管及出納ハ物品出納吏ヲシテ之ヲ掌ラシム

第十條 物品出納吏物品出納ノ命令ヲ受ケタルトキハ其ノ納入ハ現品ヲ調査納入シ其ノ支出ハ必  
要ニシテ數量ハ適當ナルヤヲ調査支出スヘシ

第十一條 物品ヲ受入レタルトキハ直ニ其ノ要部ニ應廠名ヲ烙印又ハ押捺シタル上ニアラサレハ  
交付スルコトヲ得ス但シ金屬磁器等及消耗品ノ類ハ此ノ限ニアラス

第十二條 物品ノ需用アルトキハ種類品目數量ヲ詳記シタル請求書ヲ差出サシムヘシ但異例ニ屬  
スルモノハ使用ノ目的ヲ付記セシムヘシ

第十三條 物品ヲ交付スルトキ其ノ共用ニ屬スルモノハ物品取扱主任ノ受領證專用ニ屬スルモノ  
ハ各自ノ受領證其ノ他賣却生産消費等ニ屬スルモノハ正當受取人ノ受領證ヲ徵スヘシ

第十四條 物品中郵便切手全端書及薪炭油ノ類ハ需用品トシテ適宜需用者ヲ定メ一ヶ月ヲ超エサ  
ル範圍ニ於テ實際使用ノ狀況ニ依リ其數量ヲ見積リタル請求書ヲ徵シ交付スベシ

前項交付ヲ受ケタルモノハ適宜消耗品受拂簿ヲ設ケ日々其出納ヲ登記シ受拂ニ合計及累計ヲ付

シ次回請求ヲ要スルトキハ出納吏ノ點檢ヲ受クベシ

物品出納吏ニ於テ次回ノ請求ヲ受ケタル日ハ前回ノ受拂ヲ檢査シ其合計及累計ニ認印スヘシ

年度末ニ於テハ其殘高ニ返納証書ヲ添ヘ返納スベシ

第十五條 物品毀損シ其ノ用ニ堪ヘサルモノ又ハ不用ニ屬シタルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ物品出  
納吏ヘ返付スヘシ

第十六條 不用物品ニシテ使用ノ目的ナキモノ又ハ毀損シテ修補ヲ加ヘ難キモノハ各廠長ニ於テ  
知事ノ認許ヲ經テ(知事ノ委任ヲ受ケタル各廠)賣却ノ手續ヲナスコトヲ得但シ代價完納ノ上ニ  
アラサレハ物品ヲ交付スルコトヲ得ス

第十七條 各廠ハ物品ヲ交換讓與又ハ他ノ各廠ヘ貸與スルコトヲ得ス但シ知事ノ認許ヲ得タル  
ノハ此ノ限ニアラス

第十八條 前條ニ據リ交換讓與ヲ認許セラレタル物品ハ保管ノ轉換トシテ之ヲ整理スヘシ

第十九條 貯藏ノ物品ハ鎖鑰アル場所ニ區畫配置シ紛雜セサル様常ニ注意ヲ加ヘ點檢ニ便ナラシ  
ムヘシ

第二十條 貯藏所ハ物品出納吏ニアラサレハ之ヲ開閉スルコトヲ得ス但シ其ノ鎖鑰ハ物品出納吏  
之ヲ保管スヘシ

第二十一條 貴重ノ物品ハ嚴重ノ方法ニ據リ保管スヘシ

第二十二條 物品ノ保管ハ共用ニ屬スルモノハ其ノ取扱主任ヲ定メ各自専用ニ屬スルモノハ各自  
之ヲ保管スヘシ但シ必要ナシト認ムル場合ニ於テハ取扱主任ヲ置サルコトヲ得

第二十三條 物品出納吏ハ共用ト専用トヲ問ハス取締上ニ關シテハ總テ監督ノ責任アルモノトス

第二十四條 物品出納吏ハ備品出納簿備品内譯簿消耗品出納簿其ノ他必要ノ補助簿ヲ設ケ其ノ時

々出納ヲ登記スヘシ  
物品取扱主任ハ其ノ保管ニ係ル備品ノ現在簿其ノ他必要ノ補助簿ヲ設ケ其ノ時々出納ヲ登記スヘシ

第二十五條 物品ニ属スル請求書受領證其ノ他證憑書類ハ便宜帳簿ヲ以テ整理スルコトヲ得

第二十六條 物品出納吏ハ年度經過後三十日以内ニ物品出納計算書ヲ調製シ前條ノ證憑書類ヲ添ヘ所屬物品出納命令官ニ提出スヘシ

各廨ノ命令官ハ計算書受領ノ日ヨリ十五日以内ニ之ヲ検査シ下検査書ヲ添ヘ知事ニ提出スヘシ  
第廿七條 物品出納吏更迭アリタルトキハ速ニ事務ノ引繼ヲ了シ其日ヨリ十日以内ニ物品現在高引繼書ヲ調製シ所屬出納命令官ニ提出スヘシ

各廨ノ命令官ハ引繼書受領ノ日ヨリ五日以内ニ第廿九條ノ検査調書ヲ添ヘ知事ニ提出スヘシ  
物品出納吏死亡等ニ依リ自身引繼書ヲ調製スル能ハサルトキハ所屬出納命令官他ノ官吏ニ命シ之ヲ調製セシムヘシ

第二十八條 各廨ノ物品出納命令官ハ所屬ノ官吏ヘ物品出納吏ヲ命シ直ニ知事ニ報告スヘシ其ノ變更ノトキ亦同シ

第二十九條 物品出納命令官ハ物品出納吏交替ノトキ又ハ臨時ニ検査員ヲ命シ現在品及出納ノ景況ヲ検査シ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

検査員ハ現在品ヲ調査シ出納簿ノ數量ニ検印スヘシ

第三十一條 監獄ノ作業ニ於ケル素品及製品ノ受拂ハ作業事務規程ニ據ル

第三十二條 此ノ規程ニ據リ難キモノハ知事ノ認許ヲ得テ特別ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 物品出納證明規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三十四條 前各條ノ書式ハ別紙ニ相定ム

第三十五條 物品出納ノ順序ハ各廨長ニ於テ詳細ニ之ヲ定メ知事ニ報告スヘシ其ノ變更ノトキ亦同シ

第三十六條 從來保管ノ物品ハ現在臺帳ニ依リ取調此際出納簿ヘ受入ノ登記ヲナシ其ノ臺帳ハ保存シ置クヘシ

(別紙零之)

○知事訓令内第十號 廿八年三月十一日

内務部  
警察部

縣經濟ニ属スル物品出納證明規程別冊ノ通相定ム

縣經濟ニ属スル物品出納證明規程

第一條 縣經濟ニ属スル物品出納規程第二十六條ニ據リ物品出納吏ノ証明スヘキ物品出納計算書ハ別紙書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 物品出納計算書ニハ備品出納簿消耗品出納簿ノ結果ニ因リ各品目ニ區分掲記スルモノトス  
第三條 物品出納計算書ニ添付スヘキ証憑書類ハ左ノ各項ニ據ルヘシ但シ其ノ原本ヲ提出シ難キ場合ニ於テハ當該官吏ノ保証アル謄本ヲ以テスルコトヲ得

一 消耗拂ノ物品ニ對シテハ使用者ノ受領証

二 生産ノ爲メ消費ノ物品ニ對シテハ其ノ消費ノ事由ヲ摘記シタル受領証但シ其ノ受領證ヲ徵シ難キモノハ之ニ代ルヘキ什譯書

三 保管轉換ノ爲仕拂ノ物品ニ對シテハ轉換先各廳廨ノ受領証



四 亡失毀損ノ物品ニ對シテハ其ノ品質數量代價及其ノ事實ヲ詳記シタル證明書ニ各廳長ノ認定アル書類其ノ既ニ辨償ニ係ルモノハ其ノ品質數量及辨償金額ノ仕譯書

第四條 前條ノ証憑書類ハ受入仕拂ニ大別シ物品出納計算書ニ掲記アル品目ノ順次ニ之ヲ編纂シ一々其ノ表紙ニ數量ノ合計及證憑書類ノ枚數ヲ記入スヘシ

第五條 下検査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 物品出納計算書其ノ他證憑書類ノ件名冊數

二 物品出納計算書ノ現在ト其ノ現品ト符合ヲ認メタル保証但シ當該下検査官吏ニ於テ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ官吏ノ保証書ヲ以テスルコトヲ得

三 計數正確ノ保証

四 法規ニ背戻シ若ハ事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由

前各項ノ外下検査官吏ニ於テ必要ト認メタルモノ

第六條 物品出納ノ証明ニ關スル審理書及之ニ對スル報告又ハ答辯書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

(別紙略之)

○廳達第二十四号

二十八年三月三十日

内務部  
警察部

縣經濟ニ屬スル縣廳物品出納順序別冊ノ通相定ム

縣經濟ニ屬スル縣廳物品出納順序

第一條 物品ノ購入修繕賣却等受拂ヲ要スルモノアルトキハ第四課ニ於テハ第一号書式ノ物品出納命令簿ニ登記シ其ノ手續ヲナスヘシ

第二條 備品ヲ請求セントスルトキハ第二号書式ノ備品請求及受領簿ニ登記シ内務部第四課へ請求シ其ノ交付ヲ受ケタルトキハ受領ノ證明ヲナシ第四課ニ送付スヘシ

備品ノ不用ニ屬シ若クハ破損シテ用ニ堪ヘサルモノハ備品請求及受領簿ニ式ノ如ク記入シ返納ノ手續ヲナスヘシ但破損品ニ對シテハ第三号書式ノ證明書ヲ添付スヘシ  
器具、器械、書籍等ハ詳細備品内譯簿ニ登記シ且ツ對照ナサシムル爲メ其ノ物品ニ記番号價格購入年月日等ヲ記シタル紙片ヲ貼付スヘシ

第三條 消耗品ヲ請求セントスルトキハ第四号書式ノ消耗品請求及受領簿ニ登記シ内務部第四課へ請求シ其ノ交付ヲ受ケタルトキハ受領ノ證明ヲナシ第四課ニ送付スヘシ

消耗品交付ノ後使用殘ヲ生シ返納セントスルトキハ第五号書式ノ返納證ヲ製シ内務部第四課へ返納ノ手續ヲナスヘシ

第四條 於テ前項ノ返納證ヲ受ケタルハ適宜受領證ヲ交付シ經伺ノ上登記ノ手續ヲナスヘシ

第四條 消耗品ノ内生産ノ必要アルトキハ物品出納命令簿ニ登記シ判決ヲ經テ第六号書式ノ生産品交付及受領簿ニ登記シ其ノ證明ヲ徵シ交付ノ手續ヲナシ生産出來シタルトキハ之ヲ調査シ納入ノ手續ヲナスヘシ

第五條 郵便切手若ハ薪炭油ノ類概算渡ヲ要スルトキハ第七号書式ノ消耗品概算請求及受領簿ニ登記シ内務部第四課へ請求シ其ノ交付ヲ受ケタルトキハ受領ノ證明ヲナシ第四課ニ送付スヘシ  
概算ヲ以テ交付シタル物品ハ毎月一回第八号書式ノ決算證ヲ製シ内務部第四課へ送付スヘシ  
第四課ニ於テ前項決算證ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ經伺ノ上登記ノ手續ヲナスヘシ

第六條 本廳ニ於ケル物品出納吏ハ内務部第四課長ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 各部課ニ於テハ經伺ノ上一名若ハ二名ノ物品取扱主任ヲ定メ物品出納一切ノ事務ヲ擔當セシム

各部課ニ於テ前項ノ物品取扱主任ヲ定メタルトキ若クハ變更シタルトキハ其ノ都度官氏名及物品并ニ其ノ書類引繼ノ領末ヲ内務部第四課ニ通報スヘシ

第八條 縣會議諸費及後樂園ニ屬スル物品ハ内務部第一課網ノ濱邊病院ニ屬スル物品ハ警察部警務課各其所屬ノ物品取扱主任ニ於テ取扱フヘシ

測候所巡査教習所岡山縣醫院岡山檢査所ニ屬スル物品ハ其所院ニ物品取扱主任ヲ置キ取扱ヲ爲スヘシ

其ノ他新ニ起リタルモノニシテ特ニ物品取扱主任ヲ定メサルモノハ總テ主務ノ物品取扱主任ニ於テ取扱フヘシ

附 則

第九條 從來保管ノ物品ハ物品出納吏物品取扱主任立會ノ上ニテ調査シ此際出納簿ニ受入ノ登記ヲナスヘシ

前項調査ヲナスニ方リ購入當時ノ價格分明ナラサルモノハ相當ノ見積價格ヲ評定スルモノトス國庫ニ屬スル諸物品ト混同セサル様嚴重ニ調査ヲ遂ケ遺算ナク整理スヘシ

(書式略之)

○本縣警第一号

廿五年一月十一日

警 察 署

警 察 分 署

地方稅經濟上既往ノ証書等ニ就キ當時所用ノ目的等ヲ推究スル場合即時判明チ欠ノ感少ナカラサルニ付自今備品ハ實用ヲ目的トシ苟モ華美ナル品質ハ所用上必要ナラサル物品ヲ購入セサル事ニ注意シ消耗品ハ凡一日若クハ一時又ハ數月間ノ所用數ヨリ積算購入シ年度末ニ至リ多數ノ物品ヲ翌年度ニ繰越等ノ儀無之様取計ヒ代價ハ其時々又ハ一ヶ月纏メニ無遺漏仕拂ヒ而シテ証書欄外ニハ取扱主任者ニ於テ所用上ノ事由ヲ記入調印シ又前月分ノ仕拂無止事故ニテ翌月ニ於テ支拂ヲ要スル等ノ事アルモノハ明確ニ其事故ヲ記入シ整理相付ケ候様取計ヒ且ツ毎年經費決定ニ依リ月當取調ノ際ハ各月間所用數等詳細ニ積算シ非常又ハ特別ノ事故アル外ハ年度中ニ於テ變更ヲ要スル等ノ儀無之様致スヘシ

○警部長達第二七号

廿一年二月廿九日

警 察 署 倉敷片上 金川 弓削ヲ除ク

來ル二十一年度以降所属分署ニ於テ官報購讀スヘシ 但其代價ハ定額ニ組込下附ス 右相達ス

○警部長達第一四号

廿二年三月十九日

巡 査 教 習 所 警 察 署 警 察 分 署

其署經費ノ内ヲ以テ諸新聞購求之向キ有之候處來四月一日以降本縣下ニ於テ發兌スル新聞紙ノ外

官費購求相成サル儀ト心得ラルヘシ  
右相達ス

○内務部長通知四地第二二五号 廿八年七月十日  
縣經濟ニ属スル物品ノ出納ニシテ共用トシテ交付スヘキモノハ物品取扱主任ヲ置カサル廳ニ於テ  
ハ物品出納吏ニ保管ニ属スルニ由リ受授ノ手續ヲナスニ及ハスシテ備品出納簿ハ在庫中へ整理可  
相成候此段依命及通牒候也

○内務部長通知四地第一五五号 廿九年四月一日  
縣經濟ニ属スル消耗品ニシテ物品取扱主任へ概算ヲ以テ交付スヘキモノハ取扱主任ヲ置カサル廳  
ニ於テハ其時々出納簿ヲ以テ整理スヘキ管ノ處或ハ之レヲ誤解シ出納吏目ヲ概算渡ト受ケ毎月決  
算致來リ候向モ有之趣右ハ却テ手數ヲ要スルノミナラス規則ニ違背致候條爾後右ニ依リ整理可相  
成候此段依命及通牒候也

○知事達應達第二十一號 廿七年四月四日

警察部 及各署

縣經濟ニ属スル會計規則第二十六條第七第八ニ依リ工事又ハ物品ノ賣買ヲ爲ストキト雖モ成丈掲  
示等ヲ爲シ公ニ數人ノ見込書ヲ取り施行スルコトニ注意スヘシ

○警部長達警第一七〇一号 廿七年六月廿六日

各署 所長 宛

本年四月以降法令全書無代價配布廢止相成候處右法令全書ハ官報ニ比シ索引及保存上ニ付其署定  
額内ヲ以テ購求スルハ差支無之候條此旨心得ラルヘシ

但法令全書購求ノ爲メ經費増額請求スルコトヲ得ス且ツ該書購求致候上ハ一ケ年ヲ經過シタル  
官報ハ經伺ノ上競賣スルコトヲ得

○警部長達警第一七〇二號 廿七年六月廿六日

各署 所長 宛

其署(所)備品中新聞紙不用ノ分ハ自今一ケ年經過ノ後豫定價額ヲ付シ經伺ノ上公賣スルコトヲ得  
ヘク候條此旨心得ラルヘシ

○警務課通知警第一八三三號ノ一 廿七年七月廿八日

片 上 宛

法令全書代金支拂方之義ニ付本月十六日片第一八六六號ヲ以テ御伺出候處右ハ前金拂ニテ差  
支無之等ニ候伺書ニ對シ御指令不相成候條此段及御回答候也

第十篇

第四章

稅外諸收入ニ關スル規程

明治廿六年  
十二月十四日

知事訓令  
警第三〇号

諸收入收納取扱規程

全廿四年  
四月一日

全  
警第一四号

收入計算書保証書様式

全廿七年  
二月七日

全  
警第二号

收入官吏帳簿金櫃検査手續

全廿八年  
四月三十日

内務部通牒  
内地第一三九号

爲替納金取扱ノ件

○知事訓令警第三十號

廿六年十二月十四日

警察分署

諸收入收納取扱規程別冊ノ通相定メ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治二十五年三月警第十二號ハ本訓令施行ノ日ヨリ相廢ス

諸收入收納取扱規程

第一條 大藏省主管ニ屬スル國稅外ノ諸收入ハ此規程ニ據リ取扱フヘシ

但歳入科目ハ年度毎ニ相違ス

第二條 前條調定ノ事務ハ其署長ニ委任ス

第三條 分任收入官吏ノ事務ハ其署長ニ於テ取扱フヘシ

第四條 罰金及科料ノ收入ハ裁判確定ノ翌日沒收品拂下代ハ内務部ノ通牒ニ依リ調定官ニ於テ第一號書式ノ諸收入調定元帳ニ記入シ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ廿六年大藏省訓令第四十二號ニ依リ甲號又ハ乙號書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ

但沒收金アルトキハ其金額ヲ分任收入官吏ニ通知スヘシ

第五條 納入告知書ヲ發シタル後無資力等ニテ換刑處分ヲナシタルトキハ調定官ヨリ分任收入官吏ニ通知スヘシ

第六條 分任收入官吏前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直チニ納入告知書ヲ引揚ケ收入簿ヘ扣除ノ記入ヲ了ヘ告知書ハ調定官ニ返付スヘシ

第七條 調定官ハ第二號書式ノ調定額報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ縣廳ヘ送付スヘシ

第八條 納入告知書ハ分任收入官吏ニ送付シ之ヲ納入ニ交付セシムヘシ

第九條 分任收入官吏納入告知書ノ送付ヲ受ケタルトキハ廿六年大藏省令第三十二號第十一號書式ノ收入簿調定濟額ノ欄ニ其金額ヲ登記シ直チニ納入ニ交付スヘシ

第十條 納入告知書ハ納入ヲシテ現金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ

第十一條 分任收入官吏乙號納入告知書ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ納入告知書ニ照シ之ヲ領收シ其領收證ヲ納入ニ交付スヘシ

第十二條 分任收入官吏ニ於テ前條ノ納金及沒收金ヲ領收シタルトキハ收入簿收入濟額ノ欄ニ其金額ヲ登記シ廿二年大藏省令第十三號出納官吏現金取扱規則第十五條第十六條ニ依リ廿六年大藏省令第三十二號第三號書式ノ拂込書ヲ製シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ

但沒收金ハ同時ニ收入簿調定濟額ノ欄ニ登記スヘシ

第十三條 分任收入官吏現金ヲ取扱ヒタルトキハ廿六年大藏省令第三十二號第十四號甲書式ノ現金出納簿ヲ設ケ其受拂ヲ登記スヘシ

但他ノ現金ヲ取扱ヒタルトキハ口坐ヲ別ツテ登記スヘシ

第十四條 分任收入官吏ニ於テ會計規則第七條ニ依リ金庫ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ收入簿收入濟額ノ欄ニ其金額ヲ登記スヘシ

第十五條 調定官ニ於テ會計規則第七條ニ依リ金庫ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ調定元帳ニ照シテ納入月日番号ヲ登記スヘシ

第十六條 調定官前條ノ登記ヲナシタルモノアルトキハ第三號書式ノ現金拂込濟報告書ヲ製シ翌月五日迄ニ縣廳ニ送付スヘシ

第十七條 分任收入官吏ハ收入簿ニ依リ廿六年大藏省令第三十二號第四號甲書式ニ準シ收入報告書ヲ調製シ左ノ書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ調定官ヲ經テ主任收入官吏ニ送付スヘシ

一 歳入金突合表(廿六年大藏省令第三十九號金庫出納事務規程第二十五號甲號)

一 金庫通知書(甲號納入告知書ノ分)

一 缺損金明細書

第十八條 調定官ハ關係書類ヲ取纏メ目錄ヲ添ヘ翌月五日迄ニ縣廳ニ送付スヘシ

第十九條 分任收入官吏ハ調定濟額其他本月分ニ於テ異動ナキトキハ其旨翌月五日迄ニ調定官ヲ經テ主任收入官吏ニ報告スヘシ

現金拂込高ノミニ異動アルトキハ歳入金突合表ニ添書シテ送付スルコト前ニ同シ

第二十條 分任收入官吏ハ年度完結ニ從ヒ廿七年三月會計檢査院達第九號稅外諸收入證明規程第一號書式ニ準シ收入計算書ヲ調製シ調定官ヲ經テ主任收入官吏ニ送付スヘシ



合計		右及報告候也		何警察署(又ハ分署)長	
年月日		縣知事宛		警部何ノ誰 <sup>△印</sup>	
第三號書式		現金拂込濟報告書ノ様式		△用紙對半紙	
款	項	目	金額	分任收入官吏	官氏名
		金庫通知書	金額		
		月日番号	金額		
合計					
右及報告候也		何警察署(又ハ分署)長		警部何ノ誰 <sup>△印</sup>	
年月日		縣知事宛		△印ハ朱	

第四號書式

事務引繼濟屆書様式

事務引繼濟屆書

本官取扱ノ分任收入官吏ノ事務何年何月何日ヲ以テ後任官吏へ引繼濟ニ付別紙收入計算書寫相添  
 ~此段及御届候也

年月日

何警察署(又ハ分署)分任收入官吏  
 警部何ノ誰<sup>△印</sup>

前書ノ通無相違引繼相受候也

年月日

何警察署(又ハ分署)分任收入官吏  
 警部何ノ誰<sup>△印</sup>

主任收入官吏官氏名宛

△印ハ朱

第五號書式

缺損金明細書ノ様式

△用紙對半紙

款	項	目	調定額	收入濟額	缺損額	事由	納人氏名
			圓	圓	圓		

右之通有之候也

何警察署(又ハ分署)分任收入官吏

年月日

警部何ノ誰 印

○知事達警第拾四號

廿四年四月一日

警察分署

稅外諸收入ヲ取扱フ收入官吏ヨリ收入金證明ノ爲メ提出スヘキ收入計算書及現金出納計算書ニハ保証書ヲ要シ候ニ付其ノ最近郡長警察署長分署長直稅分署長ノ内へ保証方ヲ委託シ其ノ委託ヲ受ケタル官吏ニ於テハ收入計算書ハ收入簿ニ現金出納計算書ハ現金出納簿ニ對照シ其ノ符合ヲ認メタルトキ左ノ書式ニ據リ計算書毎ニ保証書調製交付シ收入官吏ハ之ヲ添付ノ上當廳へ送付スヘシ  
(書式) 用紙美濃紙  
保證書

收入官吏何在勤廳名官氏名ノ證明ニ係ル明治何年度收入計算書ト收入簿ト(現金出納計算書)符合ヲ認ム

右保證候也

年月日

警察署長 郡長又ハ全分署長官氏名 印  
直稅分署長

(備考) 收入官吏交替ノトキ提出ノ計算書ニハ年度ノ次へ自何月何日至何月何日ト記載スヘシ

○知事訓令警第貳號

廿七年二月七日

警察分署

稅外諸收入ニ係ル現金ヲ取扱フ分任收入官吏ニ屬スル會計規則第九十一條第一項定時又ハ交替ノ際帳簿金櫃ノ検査最寄各廳ヨリ請求ヲ受ケタルトキハ署長ニ於テ左ノ手續ニ依リ執行スヘシ  
但其署分任收入官吏ノ検査ハ最寄郡長又ハ收稅署長ノ内へ請求スヘシ  
現金ヲ取扱フ分任收入官吏ノ帳簿金櫃検査手續

第一項 明治二十二年四月勅令第六十號會計規則第九十一條第一項ニ據ル帳簿金櫃ノ検査ハ此手續ニ依リ執行ス

第二項 検査員ハ嚴正ニ出納ノ事實ヲ審査スヘシ

第三項 事實不明ナルトキ又ハ検査上必要ト認ムル場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ當該官吏ノ辨明ヲ求メ或ハ書類ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

第四項 検査施行シ難キ事實アルトキハ知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第五項 検査ヲ要スル事項左ノ如シ  
一 稅外諸收入直取扱ニ係ル現金  
二 右ニ屬スル現金出納簿受入ニ對シテハ領收証ノ原符仕拂ニ對シテハ金庫ノ領收証又ハ領收簿通知書ニ符合スルモノトス

第六項 検査ヲ受クル官吏他ノ公金ヲ取扱ヒ同一ノ金櫃ニ現在金アルトキハ他ノ公金ヲモ併セテ検査ヲ行フヘシ

第七項 検査了シタルトキハ左ノ書式ニ依リ檢定書二通ヲ製シ一通ヲ當該官吏ニ交付シ一通ヲ縣廳へ差出スヘシ



但他ノ公金ヲ検査シタルトキハ適宜檢定参考書ヲ調製添付スヘシ  
 (用紙美濃紙)

大藏省主管税外諸收入現金出納高檢定書

自何年何月何日  
 至何年何月何日  
 交替セシ前任官吏ニ係ルトキハ引繼ノ日迄後  
 任官吏ニ係ルトキハ引繼受ノ翌日ヨリ定時檢  
 査ニシテ交替ナキモノハ  
 自何年四月一日  
 至何年三月三十一日  
 ト記載スヘシ

現金 収納高

前年度ヨリ越高  
 (中途交替シタル後任者ノ  
 分ニ對シテハ前任官吏ヨ  
 リ引繼高ト記スヘシ)

收納高

何金庫へ拂込濟

明治何年何月何日  
 (交替ニ係ルトキハ引繼ノ日ヲ記載シ定時)  
 (検査ノトキハ三月三十一日ト記載スヘシ)  
 (現在金ナキトキハ)  
 (零ヲ記入スベシ)

右逐検査候處相違無之候也

検査員  
 官 氏 名 印

明治何年何月何日

何廳分任收入官吏

官 氏 名 印

○四國第二三九號

廿八年四月三十日

各警察署 分署

爲換納金取扱順序ニ依リ收入シタルモノノ現金トシテ取扱ヲ要セザル旨廿七年五月坤第二一八  
 ナ以テ通牒及置候處今般更ニ別紙之通り主税局長ヨリ通牒有之候條自今右ニ據リ御取扱相成度此  
 段及通牒候也

追テ客年十二月四國第三七三號部長ヨリ通牒ハ消滅ノ義ト御了知有之度此段申添候也

(別紙)

坤第一五六五號

爲換納金取扱順序ニ依リ收入シタルモノハ現金トシテ取扱ヲ要セザル旨廿七年五月坤第二一八  
 號ヲ以テ御通牒及置候義モ有之候處主任收入官吏ノ部下ニアル分任收入官吏間ニ於テ授受ヲ爲シ  
 タルモノハ左ノ通御取扱相成度候

一 受託分任收入官吏ハ現金出納簿へ登記シ收入報告書備考へ符箋ヲ以テ其出納ノ計算ヲ掲記ス  
 ルモノトス嗣託ノ分任收入官吏ハ現金トシテ取扱ヲ爲スヲ要セス

一 主任收入官吏ハ普通現金收入ノ例ニ依リ取扱收入報告書備考へ符箋ヲ以テ現金ノ出納ヲ掲記  
 シ現金出納計算書ノ証憑ハ嗣託分任收入官吏ヨリ金庫へ拂込タル領收証書トス

右及通牒候也

明治廿八年四月十七日

大藏省主税局長目賀田種太郎

岡山縣知事河野忠三殿

逕テ管轄地外ニ係ル爲換納金收入ニ付テハ囑託廳ニ於テハ收入報告書備考へ別段記載ヲ要セザルモ滯納處分金明細書ノ備考へ爲換納金ノ手續ヲ以テ受入タル旨ヲ掲記シ受託廳ニ於テハ現金出納計算書及滯納處分金明細書中受託處分ノ部ノ備考へ同ク拂出云々ト掲記スルヲ要ス但受託廳ノ証憑ハ囑託廳ヨリ回付セシ領收証書ヲ提出スル義ト御承知有之度此段申添候也

第十篇

第五章

歳入歳出外出納ニ關スル規程

明治廿七年七月三十日

知事訓令 警第四〇号

歳入歳出外現金出納取扱規則

全 廿六年九月廿九日

知事達 廳第三三号

歳入歳出外現金出納計算檢査及責任解除ノ件

全 廿七年六月十八日

内務部長通知 四國第一八九号

保管金取扱方ノ件

全 七月十七日

全 四國第二四九号

保管金期滿失効ノ件

全 八月十三日

全 四國第二八七号

全上ノ件更正

全 廿八年五月廿八日

知事訓令 內第三二号

定時又ハ交替ノ節出納計算書保証部役所出納官吏ヨリ請求ヲ受ケタル節取扱方

全 廿八年八月十三日

内務部長通牒 四國第三八四号

現金寄託節金庫ノ領收証書ヲ証憑書トスヘキ件

○知事訓令警第四十号

廿七年七月三十日

警察分署

明治二十三年勅令第三十五号政府ニ属スル歳入歳出外現金出納取扱規則左ノ通改正ス  
但明治二十四年警第十六号全第二十一号全第二十六号其ノ他之ニ抵觸スル令達ハ廢止ス

廿八年五月  
三令内第三  
一號ニテ第  
一條中改正

歳入歳出外現金取扱規則  
第一條 歳入歳出外ニ属スル金種ハ便宜左ノ項目節ニ分類シ整理スルモノトス  
但シ左記科目ニ適合セサルモノアルトキハ其時々稟議ノ手續ヲナスヘシ

項	目	節	備考
歳入歳出外現金	第一目 領置金	第一節 囚徒所持金	
		第二節 囚徒差入金	
		第三節 刑事被告人所持金 (現金共)	後日ノ証憑トナスヘキモノニシテ 物品會計官吏ノ保管ニ付スルモノ ヲ除ク
		第四節 刑事被告人差入金	
第二目 拾得金	第一節 警察官吏拾得金		
	第二節 公廨拾得金		

第三目 拾得物公賣代	第三節 人民拾得金		
	第一節 警察官吏拾得物公賣代		
	第二節 公廨拾得物公賣代		
第四目 賊拾置金	第三節 人民拾得物公賣代		
	第一節 警察官吏拾得賊捨置金	後日ノ証憑トナスヘキモノニシテ 物品會計官吏ノ保管ニ付スルモノ ヲ除ク	
	第二節 公廨拾得賊捨置金		
第五目 賊捨置物公賣代	第三節 人民拾得賊捨置金		



但シ計算ヲ検査シ責任ノ解除ヲ會計検査院ヨリ委託セテレタルニ付本縣知事宛ヲ以テ差出ス  
ベシ

出納官吏交替ノトキハ會計規則第九十九條ノ期間内ニ前項ノ手續ヲナスベシ  
出納官吏死亡其他ノ事故ニヨリ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハザルトキ會計規則第百條ニ依リ其  
ノ取扱官吏ヲ命スルノ必要アル場合ニ於テハ署長ノ次位者ニ於テ其ノ事務ヲ取扱フベシ  
但シ次位者差支アルトキハ其ノ人ヲ指定シ知事ニ上申スベシ

第八條 前條ニ依リ出納計算書ヲ調製シタルトキハ歳入歳出外現金出納證明規程第五條第二項ニ  
ヨリ最寄郡長又ハ警察署長分署長ニ請求シ其ノ保証書ヲ得テ之ヲ添付スベシ

警察署長分署長ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ第三号書式ノ保証書ヲ製シ之ヲ交付スベシ  
第九條 出納官吏交替ノトキハ明治二十三年四月大藏省訓令第五十四號ニ據リ後任出納官吏ハ事  
務ノ引繼ヲ爲スベシ

第十條 前條事務ノ引繼ヲ了ヘタルトキハ本訓令第四号書式ノ事務引繼濟届書ヲ製シ大藏省訓令  
第五十四号付属第三号書式ノ計算書寫ヲ添ヘ即日當廳ヘ届出ヘシ

第十一條 出納官吏ニ係ル會計規則第九十一條第一項毎年三月三十一日若ハ該官吏轉免死亡停職  
等ニ依リ定時又ハ臨時ニ於ケル検査員ハ最寄郡長若ハ警察署長分署長ニ請求シ其ノ検査ヲ受ケ  
シムベシ

第十二條 警察署長分署長ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ本訓令第五号検査手續ニ據リ執行  
スベシ

第十三條 出納計算書ニ添付スベキ証憑書類總テ本訓令第六号証憑書調理事續ニ據リ整理スベシ  
第十四條 証明セシ出納計算書ニ對シ責任解除ノ認可狀ヲ交付セラレタルトキハ當該官吏ヘ通知

ノ上其ノ署ニ保存シ認可狀ノ書目ヲ記載シタル受領証書ヲ送付スベシ  
第十五條 出納官吏保管ノ金員ヲ亡失シタルトキハ其ノ金額頗末ヲ具シ即日申上スベシ

第六號 証憑書調理事續

節	受入ニ對スル 証憑書	備	考	仕拂ニ對スル 証憑書	備	考
囚徒預置金	當該官吏ノ證 明書			受取人ノ領收 証書又ハ當該 官吏ノ證明書	放免下付ノ時又ハ物品ヲ 購入シタル時ハ供給者ノ 受取証ヲ徴スルカ如シ	
囚徒差入金	差入者ノ納付 書又ハ當該官 吏ノ證明書			全上	全上	
刑事被告人 所持金 (現金共)	當該官吏ノ證 明書	現金上犯罪ノ証跡ヲ止メ後日 証憑トスルモノニシテ物品會計官 吏ノ保管ニ付スルモノヲ除ク		全上	全上	
刑事被告人 差入金	差入者ノ納付 書又ハ當該官 吏ノ證明書			全上	全上	
警察官吏拾 得金	警察官吏ノ調 書			物主ノ領收証又 當該官吏ノ證明 書金庫ノ領收証	現金保管中物主發見シタ ルトキハ物主ノ受領証書 若シ徴シカタクキハ當 該官吏ノ證明書現金 庫ヘ保管ノ爲メ送付シタ ルトキハ金庫ノ領收証書	

公廨拾得金	公廨吏ノ調書 若クハ當該官 吏ノ證明書	官廳町村役場學校等一切包 含ス公廨吏ノ調書ヲ得カタ キトキハ當該官吏証明スル モノトス	前項全上	前項同上
人民拾得金	人民ノ届書或ハ届 書ノ寫書若シハ當 該官吏ノ證明書	人民届書ヲ差出サス口頭ニ テ届出タルモノ、如キ証明 又ハ金庫ノ領收 証書	物主ノ領收証書	
警察官吏拾 得物公賣代	物件買受人ノ 納付書		警察官吏拾得 金ニ全シ	
公廨拾得物 公賣代	全上		公廨拾得金ニ 全シ	
人民拾得物 公賣代	全上		人民拾得金ニ 全シ	
警察官吏拾 得物公賣代	警察官吏拾得 金ニ同シ	犯罪ノ証跡ヲ止ムルモノニ 付テ物品會計官吏ノ保官ニ 付スルモノヲ除ク	警察官吏拾得 金ニ全シ	
公廨拾得物 公賣代	同シ		公廨拾得金ニ 全シ	
人民拾得物 公賣代	同シ		人民拾得金ニ 全シ	
警察官吏拾 得物公賣代	警察官吏拾得 金ニ同シ		警察官吏拾得 金ニ全シ	公賣以前飼養料ヲ要シタ ルトキハ飼養者ノ領收証 書

公廨捕獲逸 走畜類公賣 代	公廨拾得金ニ 同シ		公廨拾得金ニ 全シ	全上
人民捕獲逸 走畜類公賣 代	人民拾得物公 賣代ニ全シ		人民拾得金ニ 全シ	全上
郵便函投入 金	郵便局ノ納付 証若クハ當該 官吏ノ證明書	物主ノ領收証 書若クハ金庫 ノ領收証書		
假納料料金	本人ノ納付書 又ハ當該官吏 ノ證明書	刑ノ言渡ニ從ヒ納付シタル 収入官吏ノ領收 証書又ハ本人ノ 領收証書		刑ノ確定ニ從ヒ歳入へ組 込ムトキハ收入官吏ノ領 收証書無罪ニ販シ本人へ 下付シタルトキハ其領收 証書

證憑書ノ表紙ハ左ノ如ク記載スヘシ

明治何年度  
受入ノ部 (仕拂ノ部)  
何々節ヲ記ス

一金  
証書紙數何枚

岡山縣何警察(分)署歳入歳出外現金出納官吏  
官 氏 名 証明ノ分

第何号(証憑一册毎ニ付シ一号ヨリ通シテ記入スヘシ)

備考

出納官吏交替ニ係ルモノナルトキハ年度ノ下ニ自何年何月何日ト記入スヘシ  
証憑書僅少ニシテ合纂セントキハ科目金員ヲ列記シ科目ノ順序ニ編綴シ各証憑書ニ其ノ科目ヲ  
朱記シテ區分スルコトヲ得

人民ノ届書若ハ受領証ニシテ事實不明ナルトキハ當該出納官吏ニ於テ其ノ事故ヲ詳記シタル書  
面ヲ添付スルカ若ハ餘白ニ朱記スルコトヲ要ス

証明書ハ一人毎ニサス節科目毎ニ一ケ年度通シテ適宜調理スルモ妨ケナシ但シ受入及仕拂ノ  
年月日金員住所人名事故等ヲ詳記スルハ勿論タルヘシ

第五号検査手續

歳入歳出外現金出納官吏帳簿金櫃検査手續

第一項 検査員ハ厳正ニ出納ノ事實ヲ審査スヘシ

第二項 事實不明ナルトキ又ハ検査上必要ト認ムル場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ當該官吏ノ  
辨明ヲ求メ若ハ書類ノ提出ヲ求ムヘシ

第三項 検査執行シ難キトキハ速ニ知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第四項 検査ヲ要スル事項左ノ如シ

- 一 歳入歳出外現金出納
- 二 右ニ對スル歳入歳出外現金整理簿受入額ニ對シテハ出納官吏ノ証明書又ハ人民ノ届書若  
ハ納付書等仕拂額ニ對シテハ正當受取人ノ領收證書若ハ出納官吏ノ証明書金庫ノ領收証  
書現存額ニ對シテハ現金ニ符合スルモノトス

但シ收支額ノ總計ハ現金出納簿ノ收支額ノ總計ニ現存額ハ全簿ノ殘高ニ對照スヘシ

現金出納簿ニ於テ歳入金其他ノ混合アルトキハ歳入其ノ他ニ係ル帳簿ノ金額ヲ加算シテ  
符合スルヤ否ヤヲ確ムヘシ

第五項 検査ヲ受クル官吏他ノ公金ヲ取扱ヒ全一ノ金櫃ニ現在金アルトキハ他ノ公金ヲモ併セテ  
検査ヲ行フヘシ

第六項 検査ヲ了シタルトキハ左ノ書式ニ依リ檢定書貳通ヲ製シ契印ノ上壹通ハ當該官吏若ハ立  
會人ニ交付シ壹通ハ検査済ノ旨ヲ開申スル書面ニ添付シ縣廳ヘ差出スヘシ

但シ他ノ公金ヲ検査シタルトキハ適宜參考書ヲ調製シ添付スルモノトス

(用紙美濃野紙)

自何年何月何日 交替セシ前任官吏ニ係ルトキハ引繼ノ日迄後任官  
吏ニ係ルトキハ引繼受ノ翌日ヨリ定時検査ニシテ

至何年何月何日 自何年四月一日 交替ナキモノハ至何年三月卅一日ト記載スヘシ

現金受入高

前年度ヨリ越高 (中途交替シタル後任官吏ノ分ニ對シテハ  
前任官吏ヨリ引繼高ト記入スルモノトス)

各節ヲ記入ス

受入高

各節ヲ記入ス

金、  
金、

一金、

内

金、

金、

一金、

内

金、

金、

右逐検査候處相違無之候也

内

金、

明治何年何月何日

検査員

何警察(分)署長 官 氏 名 印

何應蔵入歳出外現金出納官吏

何警察(分)署長 官 氏 名 印

會計規則第九十二條ニ據リ立會官吏ナルト  
キハ責任ニ屬スル當該官吏氏名何々ニ付

立會人 何某ト記入スルモノトス

第四号書式事務引繼濟届書ノ様式

(用紙野半紙)

事務引繼濟届書

本官取扱ノ歳入歳出外現金出納ノ事務何年何月何日ヲ以テ後任官吏へ引繼濟ニ付別紙計算書寫相  
添此段及御届候也

明治何年何月何日

何警察(分)署蔵入歳出外現金出納官吏  
官 氏 名 印

前書ノ通り無相違引繼相受候也

何警察(分)署蔵入歳出外現金出納官吏

明治何年何月何日

官 氏 名 印

岡山縣知事姓名宛

第三号書式 (用紙美濃紙)

(簿記表ヲ零ス)

保証書

(ニ屬スル分)會計規則第  
百條ノ場合

何警察(分)署長警部何某證明  
又ハ何々ニ付計算書調製人

何警察(分)署詰 警部  
巡查

氏 名 證明

一明治何年度(若ハ何年月日ヨリ何年月日迄)歳入歳出外現金出納計算書

右計算書書式ノ員額出納官吏現金出納簿及現存額(現存額ナキトキハ及  
現存額ノ四字ヲ除ク)ト符合ヲ認ム

右保証候也

明治何年何月何日

何警察(分)署長官 氏 名 印





歳入へ編入ノ義何金庫ヨリ通知	警察官吏拾得金	1000	3500
拂渡証書第何号	人民拾得金	1000	1500

備考

從來ニ屬スル金庫領收証書現金出納簿ニ目下現存セル分出納簿ノ仕拂ニ登記スルト同時ニ此帳簿ニ記入スヘシ  
但(何金庫領收証書何葉)一括ニ記入シ妨ケナシ

○知事達廳第三十三号 廿六年九月二十九日

各部署

會計検査院ハ明治二十五年以以降監獄署及各警察署其他各部局ニ屬スル歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除ヲ本縣ヘ委託セシメ付書記官ヲ検査員長内務部第四課長及同課國庫費掛ノ屬僚ヲ検査員トシテ右ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

○廿七年六月十八日第一二八六号大藏大臣ノ令達ニ依リ四國第一八九号内務部長ヨリ各署ヘ通牒  
一保管物取扱規程第十二條ニ依リ發行スル拂渡証書ニ記入スヘキ期滿失効ノ年月日ハ書式ニ(領收証書ニ記載アル期滿失効ノ年月日)ト有之候處右ニ係ル現金任拂ハ其期間内ノモノナルニ付變更ノモノハ其變更シタル期滿失効ノ年月日ヲ拂渡証書ニ記載スヘキモノトス  
一保管物取扱規程第十四條ニ依リ保管証書ヲ發セサル保管金ニシテ歳入へ編入スヘキモノハ金庫

ニ於テ之レカ計算書ヲ製シ其取扱官廳へ送付スヘキニ付取扱官廳ニ於テハ調査ノ上相違ナキヲ證明シ金庫へ返付スヘキモノトス

- 一保管物取扱規程第四條第七條ニ依リ金庫ニ於テ保管シタル現金又ハ有價證券ノ取扱ヲナス甲廳ノ廢合ニ依リ乙廳ノ取扱ニ移サレタルトキハ乙廳ヨリ其旨ヲ當該金庫へ通知スヘキモノトス
- 一保管物取扱規程第三條ニ依リ甲廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ金庫へ寄托セシメタル後チ之ヲ乙廳ノ取扱ニ變更シタルトキハ甲廳ヨリ取扱廳變更方チ金庫ニ請求スヘキモノトス
- 一保管物取扱規程第十七條ニ依リ權利者ヨリ差出スヘキ利子請求書ノ書式冒頭ニ(何廳取扱トシテ寄托致置候云々)ト有之候處右取扱廳ヲ廢合シ又ハ變更シタルトキハ現ニ其取扱ヲナス所ノ廳名ヲ記入スヘキモノトス

○内務部長通牒四國第二四九號 廿七年七月十七日

保管物取扱規程ニ依リ警察官吏拾得金其他取扱方ノ件ニ付本年五月十八日四國第一三五號ヲ以通牒及置候處今般其筋ヨリ通牒并往答ノ次第有之候條別記ノ通領知御取扱相成度命ニ依リ此段及通牒候也

- 一人民拾得金等ニシテ保管ノ爲メ金庫へ送付ノ際從來遺失者ニ對シ一ケ年拾得者ニ對シテハ三十ケ年通計三十一ケ年ノ事ニ取扱來候處右保管金ノ期滿失効ノ期日ハ權利ノ移轉ニ關係無之義ニ付自今ハ明治廿三年法律第一號第一條第二ニ依リ保管ノ翌日ヨリ起算シ三十ケ年ノ期滿失効ノ期限トナル年月日記載有之度候
- 一警察官吏拾得金等ニシテ歳入へ編入スヘキモノハ明治廿七年二月大藏省訓令第八號ニテ改正セラレタル保管物金庫出納事務規程第十二條ニ依リ金庫ノ通知ヲ以テ帳簿ニ除却ノ記入ヲナスヘ

キモノニ有之候

人民拾得金及警察官吏拾得金等ニシテ拾得ノ届出年月日ヨリ滿一ケ年間ハ遺失者ニ於テ受領ス  
ヘキ權利ノ期間ニシテ一ケ年經過後ハ拾得者ニ權利移轉シ即チ債權者ノ異動ヲ生スルモ保管金  
一期滿失効ハ之ニ拘ハラズ金庫保管シタル日ノ翌日ヨリ起點トシテ計算スヘキモノナレハ取扱上  
頗ル明瞭ノ整理ヲ必要トスルヲ以テ大畧別紙式ノ如ク帳簿ヲ設ケ取扱ハレ可然ト存候  
一人民拾得金等ニシテ從來一ケ年又ハ三十一ケ年(期滿大効年月日變更トシテ通知ノ分トモ)トシテ金庫ヘ寄託シアル  
モノハ前各項ノ旨趣ニ依リ此際三十ケ年ニ訂正方關係金庫ヘ通知有之度候

拾得金其他保管期間整理條

種目	拾得金額	拾得届年月日	物主ノ受領 スヘキ期限 即チ滿一ケ 年月日	金庫保管 保管期限 年月日	拂渡 証全上 年月日	受領人 ハ編入 年月日	摘要	拾得者住所
人民拾得金	1000	明治廿七年一月一日	明治廿七年十二月卅一日	明治廿七年一月卅一日	、、、、	、、、、	、、、、	何郡何村 大字何 何某
警察官吏拾得金	1000	明治廿七年七月一日	明治五十七年七月卅一日	明治二十七年七月卅一日	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、

備考

本文ハ拾得金ノ例ヲ示シタルモノニ付他目之ニ準ス摘要ノ欄ハ事實其他各欄ニ明了ナラサ  
ルモノヲ記入スルモノトス

○内務部長通牒四國第二八七號 廿七年八月十三日

保管物取扱規程ニ依リ警察官吏拾得金其他取扱方ノ件本年七月十七日四國第貳四九號ヲ以通牒及  
置候處中央金庫ヨリ岡山本金庫ヘ通達之趣モ有之就テハ拾得金其他保管期間整理簿様式中保管期  
限年月日ノ欄人民拾得金一月三十日トアルヲ一月三十一日警察官吏拾得金明治二十八年六月三十  
日トアルヲ明治五十七年七月三十一日ト更正候條御領知相成度此段及通牒候也  
追テ本文警察官吏拾得金滿一ケ年經過スルモ物主不明ナルトキハ編入スヘキモノニ付明  
治二十六年九月大藏省令第貳拾號保管物取扱規程第二十一條ニ依リ期滿失効年月日變更トシテ  
關係金庫ヘ通知相成度此段爲念申添候也

○知事訓令内第三十二号 二十八年五月二十八日

警察分署

歳入歳出外金ヲ取扱フ出納官吏ニ屬スル會計規則第九十一條第一項定時若ハ交替ノ際帳簿金櫃ノ  
檢査及出納計算書証明ニ要スル保証書調製方最寄郡役所出納官吏ヨリ請求ヲ受ケタルトキハ明治  
二十七年七月當縣訓令警第四十号歳入歳出外現金取扱規則中第五号檢査手續及全第三号書式ニ準  
シ執行スヘシ

○内務部長通牒四國第三八四號 廿八年八月十三日  
 明治廿七年七月本縣訓令警第四十號歲入歳出外現金出納取扱規程第五條二項ニ依リ出納官吏ニ於テ現金ヲ金庫ヘ寄托セシトキ現金出納簿ノ仕拂ニ登記シタルモノハ同規程第六號證憑書調理手續ニ依リ金庫ノ領收證書ヲ以出納計算書ノ證憑書トシテ提出スヘキ等ニ就テハ其領收證書金額ニ對シ金額及科目拾得届出年月日拾得者ノ住所氏名等掲載シタル仕譯書添付シ證明相成度命ニ依リ此段及通牒候也

第十篇

第六章

内務省所管物品ニ關スル規程

知事訓令  
 警第一五号

内務省所管ニ係ル物品出納順序

明治廿七年  
 三月廿八日  
 全 廿三年  
 十二月十一日

警部長達  
 主第八二七号

賊拾置金中後日証據トナルモノ保管ノ件

○知事訓令警第拾五号

廿七年三月二十八日

警 察 署  
 警 察 分 署

警察署全分署ニ於テ取扱フヘキ内務省所管ニ係ル物品出納順序別冊ノ通改正シ廿七年度ヨリ施行ス

警察署全分署ニ於テ保管スヘキ物品ハ左ノ如シ

- 第一條 警察官吏得遺失沒收品（掘得、埋藏物、賊ノ拾置品、等ニ）
- 二 應禁物沒收品
- 三 違警罪沒收品
- 四 遺失物品
- 五 賊拾置品（第五條外ノ物品）
- 六 賊拾置保管金品（第五條ニ該ルモノ）
- 七 囚徒并刑事被告人領置品（所持品并差入品並物共但飲食物ノ如キ消費品ヲ除ク）

二十七年七月  
 令第三七  
 号ニテ第  
 九項第六  
 項追加改  
 正

廿九年二月  
訓令第八  
号ニテ第八  
項追加

廿七年七月  
訓令第三  
号第四條  
第五條第六  
條第九條第十  
一條第十  
三條第十  
五條修正  
追加

八 押収并証憑物品

九 逃走畜類

十 徵收物品(質屋取締法第十六條及古物商販)  
(縮法第十七條等ニ該當スル物品)

第二條 警察署長全分署長及取扱者一名ヲ物品取扱主任トシ物品出納一切ノ責ニ任セシム  
警察署全分署ニ於テ前項ノ主任ヲ定メタルトキ若クハ變更シタルトキハ其都度官氏名及物品書  
類引繼ノ顛末ヲ内務部第四課へ通報スヘシ

第三條 物品ハ堅牢ノ場所へ藏置シ毀損汚穢ヲ生スルガ如キ不取締無之様常ニ注意スヘシ  
藏置所ノ鍵ハ物品取扱主任之ヲ保管シ其開閉ヲ掌ルコト勿論タルヘシ

貴金屬若クハ有價証券ノ類ハ特ニ堅牢ノ鍵箱ニ藏メ保管方格別ノ注意ヲナスヘシ

第四條 第一條ノ物品ヲ受入レタルトキハ毎月第一号書式ノ出納明細表ヲ製シ之ニ届書手續書判  
決書往復書等ノ關係書類ヲ添付シ翌月五日迄ニ内務部第四課へ送付スヘシ其物品ヲ仕拂ヒタル  
トキハ第二號書式ノ受領証書又ハ受領証書ヲ徵シ難キトキハ適宜ノ証明書ヲ添へ送付スルコト  
亦全シ但出納ナキトキハ其旨同期日迄ニ報告スヘシ

第五條 贓拾置品ノ内犯罪ノ用ニ供シ若クハ犯罪ニ依テ得タル物件及其他犯罪ノ證據トシテ公訴  
期間内保存ノ必要アルモノハ他ノ物品ト區別保管スヘシ但シ物主發見ノ場合ハ十五年司法省丙  
第廿四号ニ據ル

全現金ニシテ特ニ犯罪ノ証跡ヲ止メ證據トシテ保管ノ必要アルモノハ保管物取扱規程ニ依リ金  
庫へ寄托セス亦前項ニ依テ取扱フヘシ

第六條 前條ノ物品ハ其届人住所氏名拾置場所物品ノ形質員數届出月日等ヲ詳記シ所轄檢事へ報

告スヘシ

第一條第五項第六項ト區別判明セサルトキハ其事由ヲ詳報シ檢事ノ報知ヲ得テ處理スヘシ

第七條 沒收物品及警察官吏拾得品其他一定ノ期限ヲ過キ官沒ニ歸シタルモノアルトキハ第三号  
書式ノ目錄書ヲ製シ關係書類ヲ添付シ内務部第四課へ送付スヘシ

但異種ニ屬スルモノ、如キ犯罪搜查其他行獄上參考トシテ保存ノ必要アルモノハ格別ニ目錄  
書ヲ製シ他物品ト區別保管ノ手續ヲナシ普通ノモノハ本條ノ手續ヲナスト同時ニ第九條ノ手  
續ヲナスヘシ

沒收品中官廳ノ烙印アルモノ及劇藥毒藥無印紙賣藥應禁物并應禁物ニシテ一旦廢棄スルノ後ハ  
公賣シ害ナキモノ埋藏物ニシテ明治十年九月内務省甲第二十號ニ該ルモノ警察署ニ於テ特ニ若  
干月間保存ノ必要アルモノ若クハ毀損腐敗輕微ノ物品ニシテ價值ナシト認ムルモノアルトキハ  
前項送付ノ際其品質事由ヲ詳記スヘシ

第八條 沒收品ニシテ一時賣却スルトキ見積價格貳百圓以上ノモノハ處分方見込ヲ付シ經伺ノ上  
處分ノ手續ヲナスヘシ

第九條 前條外ノ物品ニシテ假令ハ郵便切手ノ如キ棄捨ニ屬スルモノヲ除クノ外ハ二名以上ノ當  
業者ヨリ見積書ヲ差出サシメ其高價ノモノニシテ見積價格以上ニ達シ其價格ヲ適當ト認メタル  
トキハ其旨添書シテ内務部第四課へ送付スヘシ但銃砲彈藥藥品煙草等ノ如キ取扱上成規アルモ  
ノハ當該營業者ニ限ルコト勿論タルヘシ

第十條 内務部第四課ニ於テ見積書若クハ應禁物等ノ送付書ヲ受ケタルトキハ之ヲ査定シ賣却若  
クハ棄權ノ決裁ヲ經テ其旨物品取扱主任へ通知スヘシ

第十一條 賣却決裁ノ通知ヲ受ケタルトキハ諸收入收納取扱規程ノ順序ヲ踐行シ納入告知書ニ接

廿九年十二  
月附令丙第  
百号改正

換シタル受領證書ヲ以テ代金ノ既納ヲ證明セシメ品目毎ニ第四号書式ノ受領證書ヲ徴シ之ヲ引

換ニ物品ヲ交付シ同時ニ帳簿ヲ除却ノ上其受領證書ハ直ニ第四課へ送付スヘシ

棄權ノ通知ヲ受ケタルトキハ相當手續ヲ踐行シ物品ノ離權ト同時ニ帳簿ヲ除却スヘシ

第十二條 物品取扱主任往復ノ書類ハ總テ當該署長ヲ經由スヘシ

署長ハ經由ノ証トシテ書類ニ認印若クハ添書スヘシ

第十三條 物品取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ設ケ其出納ヲ登記スヘシ

一 官沒品明細簿

第五号書式

二 領置品明細簿

第六号書式

三 官沒保管品明細簿

第七号書式

四 賊捨置保管品明細簿

第八号書式

右ノ外必要ナルトキハ適宜補助簿ヲ設ケ整理スヘシ

第十四條 年度末一回若クハ必要ナルトキハ臨時ニ物品取扱主任ノ帳簿及現品ヲ検査シシムルコ

トアルヘシ

第十五條 物品ノ品目ハ種類ニ依リ區分シ左ノ如ク整理スヘシ

- 一 沒收品
- 一 遺失物
- 一 賊捨品
- 一 所持品
- 一 徵收物
- 一 動物

前項ノ品目ニ恰當セサルモノアルトキハ稟議ノ上處理スヘシ

(書式略ス)

○警部長達主第八二七号 二十三年十二月十一日

内務省警保局長ヨリ別紙之通り通知有之候條此旨心得ナルヘシ

右通達ス

(別紙)

警第五一号 保管金ノ件ニ付別紙和歌山縣伺ニ對シ指令相成候間爲御心得此段及通知候也

明治二十三年十二月二日

内務省警保局長清 浦 奎 吾

保管金之義ニ付伺 保管金寄托方之義ハ本年(一月)勅令第二号ニ據ルハ勿論ニ候處賊捨置金ノ如キ後日証據ト爲スヘキモノハ預金局へ寄托ヲ爲サス各警察署ニ於テ保管致度此段相伺候也

明治二十三年五月十五日

和歌山縣知事石 井 忠 亮

(指令)

本年五月十五日二甲第二二二号伺保管金ノ件ハ物品會計官吏ニ於テ保管スヘキ義ト心得ヘシ

明治二十三年一月廿八日

内務大臣伯爵西 郷 從 道

第十篇

第七章

積金

明治廿二年  
六月二十日  
全廿四年  
三月四日

警部長達  
第二九号  
全  
警訓第六号

警察官吏私約積金取扱規則  
私約積金下戻認可ノ件

○警部長達第二九号

廿二年六月廿日

警察本部各課 警察署  
警察分署 巡查教習所

本年四月内務省訓令第十五号ヲ以テ警部巡查給與規則第八條(巡查積金)ヲ刪除セラレ候所右ハ全ク巡查積金ヲ不可トシテ廢サレシモノニ無之旨其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ就テハ從來巡查積金ヲ依然繼續シ向後ハ警察官吏ノ私約ヲ以テ常ニ俸給ノ幾分ヲ積立別紙積金取扱規則ニ依リ蓄積致候様各員へ協議ヲ遂ケ承諾ノ上ハ其旨届出ヲルヘシ  
但從來ノ積金ハ追テ一時預金局ヨリ取戻シ差廻ニ及候條其際更ニ元金歸還局貯金預リ所へ預ケ入方取計ヲハルヘシ  
右訓示ス  
(別紙)

警察官吏私約積金取扱規則

一 警部長及ヒ警部警部補巡查備員ニ至ル迄私約ヲ以テ積立金ヲ爲シ俸給支給ノ都度金額二十分ノ

一 才目途トシ積立ルモノトス

但各自ノ意見ニ依リ二十分一以上ノ金員ヲ積立ルモ隨意タルヘシ

一 病氣引又ハ父母ノ看病及墓參等ノ爲メ歸省或ハ私事訴訟等ニテ不勤中月俸ハ成規ニ依リ減給スルコトアルモ該積金ハ尙ホ減額セザルモノトス

一 積金ハ郵便條例第十三章ニ依リ驛遞局貯金預所ヘ預ケ入可成貯金通帳ハ壹人毎ニ備置クヘシ

一 積金出納ハ別ニ各自積金元簿ヲ設ケ警察本部ハ主計課長各警察署分署ハ署長巡查教習所ハ所長之レヲ取扱所屬員ノ通帳ヲ取纏メ保管スヘシ

但從前各自貯金預ケ入チナシ居タルモノハ其通帳ヲ繼續シ其保管方ハ本項ニ依ル

一 奉職中ト雖トモ無止事故ニ依リ積金ノ下戻ヲ請求スルトキハ課署長ニ於テ篤ト取調ノ上事實不  
得止場合ニ於テハ積金全額ノ内幾分チ下戻スコトアルヘシ但積金額六圓チ欠クコトヲ得サルモ  
ノトス

一 甲警察署ヨリ乙警察署ニ移轉ノ節ハ其通帳ヲ署長ニ向ケ送付スヘシ

但轉免死亡等ノ節ハ其貯金通帳ハ本人又ハ遺族ニ下戻スヘシ

一 轉免死亡等ノモノ奉職中至然官金返納又ハ賠償金等アルトキ其金額返納シ能ハサルモノハ該積  
金ノ内ヨリ返納スヘキ手續ヲ爲サシメ皆納ニ至リ通帳ヲ下戻スヘシ

附 則

一 從來ノ巡查積金利子本年六月迄ノ分ハ是迄ノ通り文武講習費トシテ本部ニ保管シ之チ下付セス  
七月以降ハ各自ヘ利子金下附スルモノトス

○ 警部長達警訓第六号

廿四年三月四日

各 警 察 署 長  
分 署 長

今般警視第九号ヲ以テ警察官吏私約積金取扱規則中第五項ヲ改正シタルハ自己又ハ家族ノ疾病若  
クハ一家ノ維持上萬不得止事情ニ依リ之カ下戻ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ其認可ヲ與フヘキ旨  
趣ニ付徒ヲニ之カ情弊ニ流レ姑息ノ處置ヲ爲スヘカヲサルハ當然タリ然リ而シテ此輩在職中往々  
負債堆滯醜汚ノ行爲アルカ爲メ一旦其職ヲ退ノ后ト雖トモ延テ警察ノ威信ヲ傷フニ至ルハ實ニ慨  
歎ニ堪ヘサルヲ以テ豫メ是等ノ汚行ヲ防制スルノ策ヲ講スルハ各位ノ躊躇セザル所タリト雖トモ  
之チ處スルニ寬嚴其宜ヲ得ザルトキハ或ハ私權ヲ害シ或ハ防制ノ目的ヲ全フスルコト能ハサルニ  
至ルノ憾ナシトセス故ニ各自ノ協議ヲ盡シ便宜盟約ノ方法ヲ設ケ之カ退職ノ際ニ於テ遅延ナク其  
積金ヲ以テ辨濟セシムルノ同盟ヲ定ムルハ本官ノ切望スル所ナリ宜シク此意ヲ体シ速ニ決行セテ  
ルヘシ



明治三十年十一月五日印刷  
明治三十年十一月十日發行

非賣品

發行者

岡山縣警察部

印刷者

岡山縣岡山市西中山下九十五番邸  
小坂清作

印刷所

岡山縣岡山市榮町八番邸  
山陽活版所



